

血漿分画製剤に関する一般生活者調査 調査結果報告書

2014.3

株式会社日本能率協会総合研究所



	page
1. 調査概要	2
2. 回答者属性	4
3. サマリー	7
4. 詳細分析	12
Q1. 献血への関心	13
Q2. 献血経験	14
Q3. 血漿分画製剤の認知	15
Q4-1. 資料A理解度_血液の構成	16
Q4-2. 資料A理解度_輸血用血液製剤がつくられること	17
Q4-3. 資料A理解度_血漿分画製剤がつくられること	18
Q5-1. 認知度_輸血用血液製剤の精製方法	19
Q5-2. 認知度_血漿分画製剤の精製方法	20
Q6-1. 認知度_輸血用血液製剤の使用目的	21
Q6-2. 認知度_血漿分画製剤の使用目的	22
Q7. 難病患者の血漿分画製剤使用認知	23
Q8-1. 自身の治療経験_輸血用血液製剤	24
Q8-2. 自身の治療経験_血漿分画製剤	25
Q9-1. 家族・友人の治療経験_輸血用血液製剤	26
Q9-2. 家族・友人の治療経験_血漿分画製剤	27
Q10. 血漿分画製剤に対する安全性イメージ	28
Q11-1. 資料B理解度_出荷までの5つの厳しい対策	29
Q11-2. 資料B理解度_血漿分画製剤特有の対策	30
Q12. 安全対策取り組みの認知	31
Q13. 安全対策取り組みの評価	32
Q14. 資料C理解度_難病・希少疾患患者の治療	33
Q15. 血漿分画製剤の安定供給の必要性	34
Q16-1. 資料D理解度_平常時の備え	35
Q16-2. 資料D理解度_緊急時の備え	36
Q17. 安定供給のための取り組み認知	37
Q18-1. 取り組み評価_平常時	38
Q18-2. 取り組み評価_緊急時	39
Q19-1. 望むこと_継続的な安全性に対する取り組み	40
Q19-2. 望むこと_継続的な安定供給	41
Q19-3. 望むこと_継続的な難病・希少疾患治療への貢献	42
Q20. 安全な血漿分画製剤供給の必要性	43
Q21. 血漿分画製剤の情報入手意向	44
5. 調査票	45

1.調査概要

1. 調査概要

■ 調査目的

安全で優れた品質の血漿分画製剤を開発・供給することの意義について、一般生活者の評価を把握すること。

■ 調査対象者

全国に居住する一般生活者：20歳以上の男女

■ 調査手法

インターネット調査

■ 本調査回収サンプル数

2,000名

※20代／30代／40代／50代／60代以上の男女10区分で、200名ずつ均等割付け

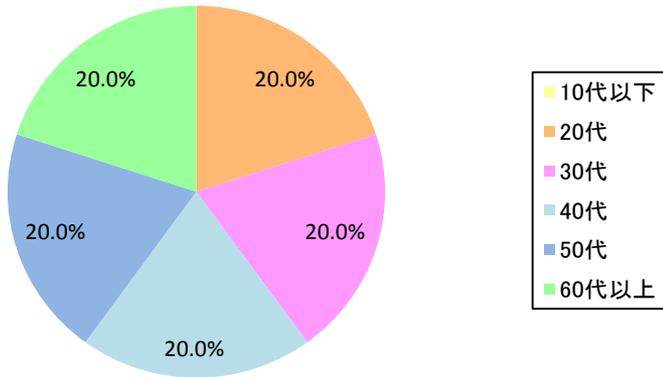
■ 調査実施時期

2014／2／25(火)～ 2014／3／4(火)

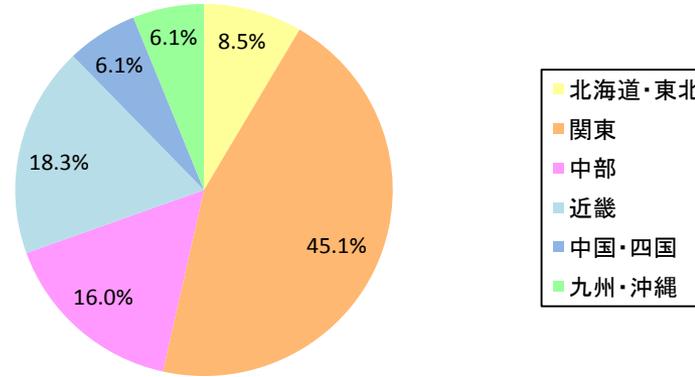
2.回答者属性

2. 回答者属性

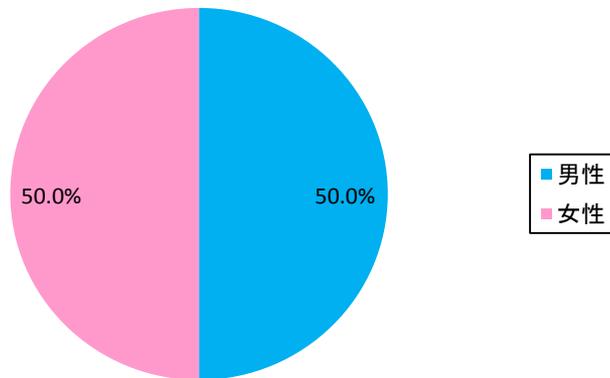
●年齢 (n=2000)



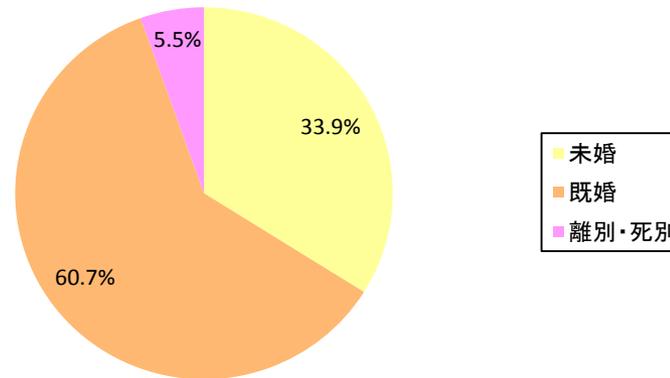
●居住地 (n=2000)



●性別 (n=2000)

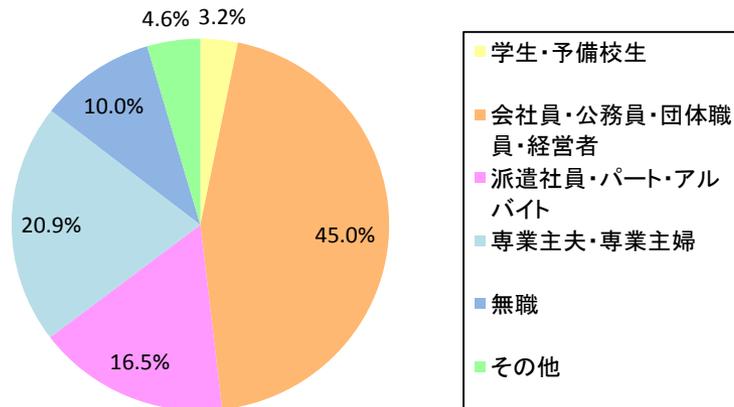


●婚姻状況 (n=2000)

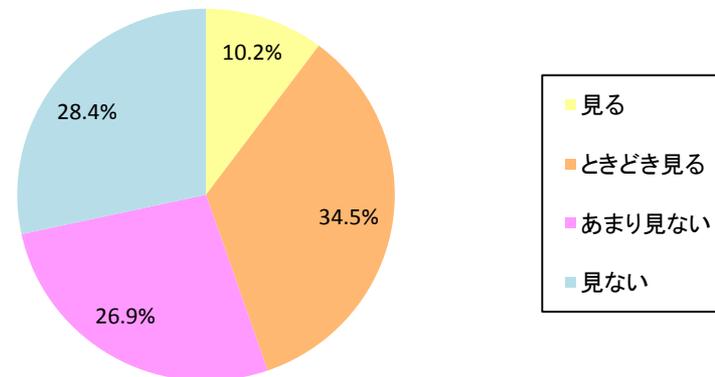


2. 回答者属性

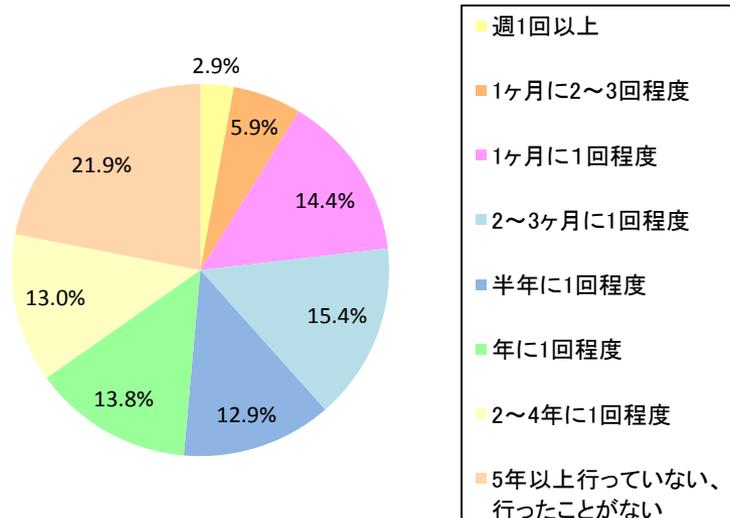
●職業 (n=2000)



●待合室にある治療に関する冊子の閲覧有無 (n=2000)



●病院での受診頻度(n=2000)



3.サマリー

3. サマリー

今回調査の対象者について

- 全国に居住する20歳以上の一般生活者2,000名(性年代別に均等割付)を対象に調査を実施し、以下のような特徴がみられた。
- 病院での受診頻度については、「5年以上行っていない、行ったことがない」が21.9%と最も高く、次いで「2~3ヶ月に1回程度」が15.4%、「1ヶ月に1回程度」が14.4%であった。なお、約5割が半年に1回程度以上病院で受診しており、約2割が1ヶ月に1回程度以上病院での受診をしている結果であった。
- 病院やクリニックの待合室に置いてある疾患や治療に関するパンフレットの閲覧有無については、「見る」と「ときどき見る」を合計した”見る計”でみると、44.7%が見ると回答した。
- 献血への関心については、「関心がある」と「やや関心がある」の“関心計”でみると、43.0%が関心があると回答した。
- 献血をした経験については、「献血をした経験はない」が45.1%と最も高いが、献血をした経験がある方は半数を超えている。献血経験がある方の中では、「10回以上」が最も高く14.0%という結果であった。

血漿分画製剤について

- 血漿分画製剤という医薬品の認知度は、14.4%であった。
- 資料を呈示した上での血漿分画製剤の精製方法の認知度は32.7%であり、輸血用血液製剤の精製方法の認知度36.8%とほぼ変わらない結果であった。
- 資料を呈示した上での血漿分画製剤の使用目的の認知度は35.4%であり、輸血用血液製剤の認知度47.5%より低い結果であった。
- 血漿分画製剤の情報入手意向は35.4%であり、約4割の人が血漿分画製剤についてもっと知りたいと思っている。



血漿分画製剤という言葉での認知は1割と少ないものの、資料を呈示した上での精製方法や使用目的の認知はそれぞれ3割、4割となっている。また約4割の人が血漿分画製剤についてもっと知りたいと回答した。血漿分画製剤について情報提供の有効性がうかがえる。

3. サマリー

資料内容の理解度について

- 資料A(血液の有効利用)の理解度については、「血液の構成」の理解度は80.9%、「血液から輸血用血液製剤がつくられること」の理解度は79.8%、「血液から血漿分画製剤がつくられること」の理解度は76.4%であった。
- 資料B(血漿分画製剤のウィルスに対する安全性確保対策)の理解度については、「出荷までの5つの厳しい対策」の理解度は78.0%、「血漿分画製剤特有の対策」の理解度は75.7%であった。
- 資料C(難病・希少疾患患者の治療)の理解度は79.5%であった。
- 資料D(血漿分画製剤の安定供給のための取り組み)の理解度については、「平常時の備え」の理解度は79.6%であった。「緊急時の備え」の理解度は77.4%であった。



いずれの資料についても8割程度が理解できたと回答している。

血漿分画製剤の治療について

- 自身の血漿分画製剤での治療経験は2.2%であり、輸血用血液製剤での治療経験3.6%と同様に自身の治療経験がない人がほとんどであった。
- 家族・友人の血漿分画製剤での治療経験は2.2%であり、輸血用血液製剤での治療経験4.5%と同様に家族・友人に治療経験がない人がほとんどであった。
- 血漿分画製剤を必要とする難病患者がいることの認知度は17.6%であり、約2割の認知であった。



自身、家族・友人ともに血漿分画製剤の治療経験がある人は数パーセントとほとんどおらず、また血漿分画製剤を必要とする難病患者がいることの認知は約2割であった。このことから血漿分画製剤治療に関する情報発信の必要性がうかがえる。

3. サマリー

血漿分画製剤の安全性について

- 資料呈示前の血漿分画製剤の安全性イメージは「安全そうだと思う」と「やや安全そうだと思う」の“安全そうだと思う計”で見ると、20.6%が安全そうだと回答した。「どちらともいえない」が57.5%、「あまり安全そうだと思わない」と「安全そうだと思わない」の“安全そうだと思わない計”で見ると、22.1%が安全そうだと思わないと回答した。約2割の人が安全であるイメージをもっている結果であった。
- 血漿分画製剤の安全対策の取り組みの認知度は15.8%であり、安全対策の取り組みを知っていた人は約2割であった。
- 資料呈示後の血漿分画製剤の安全対策の取り組みへの評価は51.9%であり、約5割の人が評価している結果であった。



資料呈示前に血漿分画製剤が安全そうとのイメージは約2割であったが、資料呈示後は、約5割の人が安全対策への取り組みを評価する結果となった。このことから血漿分画製剤の安全対策への取り組み啓発の必要性がうかがえる。

血漿分画製剤の安定供給について

- 血漿分画製剤の安定供給の取り組みの認知度は13.4%であり、安定供給の取り組みを知っていた人は約1割であった。
- 資料呈示後の血漿分画製剤の安定供給の必要性の評価は66.8%であり、6割以上の人が血漿分画製剤の安定した供給が必要であると回答する結果となった。



血漿分画製剤の安定供給の取り組みについての認知度は約1割であったが、資料呈示後は、6割以上の人が安定供給への取り組みを評価する結果となった。このことから血漿分画製剤の継続的な安定供給の必要性がうかがえる。

3. サマリー

今後の血漿分画製剤に望むこと について

- 安全性に対する取り組みを継続的に行ってほしいかどうかについては、「そう思う」と「ややそう思う」の”そう思う計”で見ると、80.3%がそう思うと回答した。8割以上の方が安全性に対する継続的な取り組みを望んでいる結果であった。
- 安定供給に対する取り組みを継続的に行ってほしいかどうかについては、「そう思う」と「ややそう思う」の”そう思う計”で見ると、79.4%がそう思うと回答した。約8割の方が安定供給に対する継続的な取り組みを望んでいる結果であった。
- 難病・希少疾患治療を含む治療を継続的に行ってほしいかどうかについては、「そう思う」と「ややそう思う」の”そう思う計”で見ると、78.6%がそう思うと回答した。約8割の方が難病・希少疾患治療に対する貢献を望んでいる結果であった。
- 安全な血漿分画製剤が不足することなく、必要な人々に供給される必要性については、「必要だと思う」と「やや必要だと思う」の”必要計”で見ると、88.9%が必要だと思うと回答した。約9割の方が必要であると回答する結果となった。

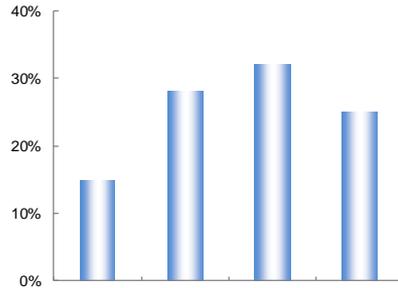


安全な血漿分画製剤が安定して必要な人々に継続的に供給されることが望まれていることが明らかになった。

4.詳細分析

Q1. 献血への関心

- 全体 : 献血への関心をたずねたところ、「関心がある」+「やや関心がある」の“関心計”で見ると、43.0%が関心があると回答。
- 冊子閲覧 : 冊子を『見る』人は献血への関心について、「関心がある」が全体と比べて10ポイント以上高い。
- 献血経験 : 献血経験が『10回以上』の人は献血への関心について、「関心がある」が全体と比べて10ポイント以上高い。『1～9回』の人は「やや関心がある」が全体と比べて10ポイント以上高い。『献血した経験はない』、『分からない/覚えていない』人は「関心がない」がそれぞれ全体と比べて10ポイント以上高い。



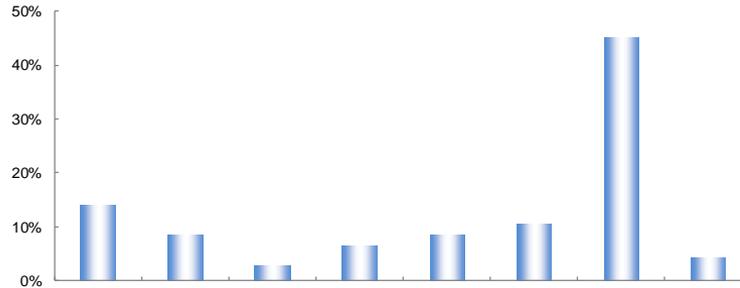
		サンプル数	関心がある	やや関心がある	あまり関心がない	関心がない	関心計
全体		2,000	14.9	28.1	32.0	25.1	43.0
性別	男性	1,000	16.1	24.4	32.4	27.1	40.5
	女性	1,000	13.7	31.7	31.5	23.1	45.4
年代	20代	400	17.0	27.8	25.0	30.3	44.8
	30代	400	16.8	26.5	30.5	26.3	43.3
	40代	400	15.8	27.8	30.5	26.0	43.6
	50代	400	13.3	30.3	36.0	20.5	43.6
	60代以上	400	11.8	28.0	37.8	22.5	39.8
	F7.待合室にある冊子閲覧	見る	204	39.7	35.8	14.7	9.8
	ときどき見る	690	17.5	37.8	32.5	12.2	55.3
	あまり見ない	538	10.2	24.2	42.0	23.6	34.4
	見ない	568	7.2	17.1	28.0	47.7	24.3
Q1. 献血への関心	関心がある	298	100.0	-	-	-	-
	やや関心がある	561	-	100.0	-	-	-
	あまり関心がない	639	-	-	100.0	-	-
	関心がない	502	-	-	-	100.0	-
Q2. 献血経験	10回以上	279	55.9	28.3	13.6	2.2	84.2
	1～9回	731	13.4	42.1	30.6	13.8	55.5
	献血した経験はない	902	4.8	17.6	39.0	38.6	22.4
	分からない/覚えていない	88	1.1	17.0	28.4	53.4	18.1

関心計
↓

全体より10ポイント以上高い
全体より5ポイント以上高い
全体より10ポイント以上低い

Q2. 献血経験

- 全体 : 献血経験をたずねたところ、「献血した経験はない」が45.1%と最も高く、次いで「10回以上」14.0%、「1回」10.6%であった。
- 年代別 : 『20代』は献血経験について、「献血した経験はない」が全体と比べて10ポイント以上高い。『50代』は「献血した経験はない」が全体と比べて10ポイント以上低い。
- 冊子閲覧 : 冊子を『見る』人は献血経験について、「10回以上」が全体と比べて10ポイント以上高い。
- 献血への関心 : 献血への『関心がある』人は献血経験について、「10回以上」が全体と比べて10ポイント以上高い。『関心がない』人は「献血した経験はない」が全体と比べて10ポイント以上高い。

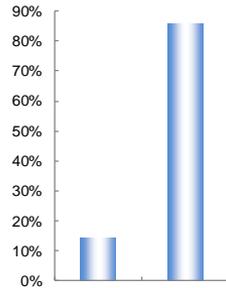


		サンプル数	10回以上	5~9回	4回	3回	2回	1回	献血した経験はない	分からない/覚えていない
全体		2,000	14.0	8.5	2.8	6.3	8.5	10.6	45.1	4.4
性別	男性	1,000	18.3	9.8	2.5	7.0	8.8	9.5	39.7	4.4
	女性	1,000	9.6	7.1	3.1	5.6	8.1	11.6	50.5	4.4
年代	20代	400	7.3	5.5	3.0	5.5	6.5	7.8	58.0	6.5
	30代	400	12.8	9.3	4.0	3.3	5.0	9.3	53.0	3.5
	40代	400	16.8	9.5	2.5	5.0	7.0	11.5	42.8	5.0
	50代	400	17.3	9.3	3.3	7.0	9.0	15.5	34.8	4.0
	60代以上	400	15.8	8.8	1.3	10.8	14.8	8.8	37.0	3.0
	F7.待合室にある冊子閲覧	見る	204	24.0	13.2	5.9	8.3	9.3	7.8	30.9
	ときどき見る	690	15.2	11.2	3.9	8.0	9.6	10.1	39.4	2.6
	あまり見ない	538	12.6	6.9	2.6	6.5	8.2	11.5	47.6	4.1
	見ない	568	10.0	4.9	0.5	3.3	7.0	11.1	54.8	8.3
Q1. 献血への関心	関心がある	298	52.3	17.1	3.7	4.4	4.7	3.0	14.4	0.3
	やや関心がある	561	14.1	13.5	5.9	10.9	12.8	11.8	28.3	2.7
	あまり関心がない	639	5.9	4.5	1.4	5.8	9.1	14.2	55.1	3.9
	関心がない	502	1.2	2.6	0.6	3.0	5.0	9.0	69.3	9.4
Q2. 献血経験	10回以上	279	100.0	-	-	-	-	-	-	-
	1~9回	731	-	23.1	7.7	17.2	23.1	28.9	-	-
	献血した経験はない	902	-	-	-	-	-	-	100.0	-
	分からない/覚えていない	88	-	-	-	-	-	-	-	100.0

全体より10ポイント以上高い
全体より5ポイント以上高い
全体より10ポイント以上低い

Q3. 血漿分画製剤の認知

- 全体 : 血漿分画製剤の認知をたずねたところ、「はい」が14.4%となっており、認知度は約15%となっている。
- 冊子閲覧 : 冊子を『見る』人の血漿分画製剤の認知は、全体と比べて10ポイント以上高い。
- 献血への関心 : 献血への『関心がある』人の血漿分画製剤の認知は、全体と比べて10ポイント以上高い。
- 献血経験 : 献血経験が『10回以上』人の血漿分画製剤の認知は、全体と比べて10ポイント以上高い。

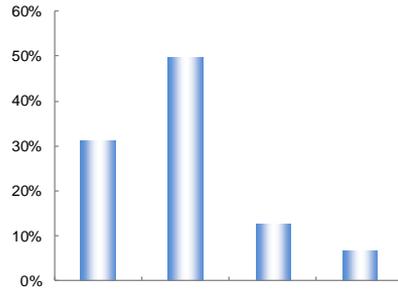


		サンプル数	はい	いいえ
全体		2,000	14.4	85.6
性別	男性	1,000	17.1	82.9
	女性	1,000	11.7	88.3
年代	20代	400	12.5	87.5
	30代	400	13.0	87.0
	40代	400	12.0	88.0
	50代	400	15.5	84.5
	60代以上	400	19.0	81.0
	F7. 待合室にある冊子閲覧	見る	204	35.3
	ときどき見る	690	17.8	82.2
	あまり見ない	538	11.7	88.3
	見ない	568	5.3	94.7
Q1. 献血への関心	関心がある	298	33.6	66.4
	やや関心がある	561	16.8	83.2
	あまり関心がない	639	8.1	91.9
	関心がない	502	8.4	91.6
Q2. 献血経験	10回以上	279	31.2	68.8
	1~9回	731	17.2	82.8
	献血した経験はない	902	7.8	92.2
	分からない/覚えていない	88	5.7	94.3

■ 全体より10ポイント以上高い
 ■ 全体より5ポイント以上高い
 ■ 全体より10ポイント以上低い

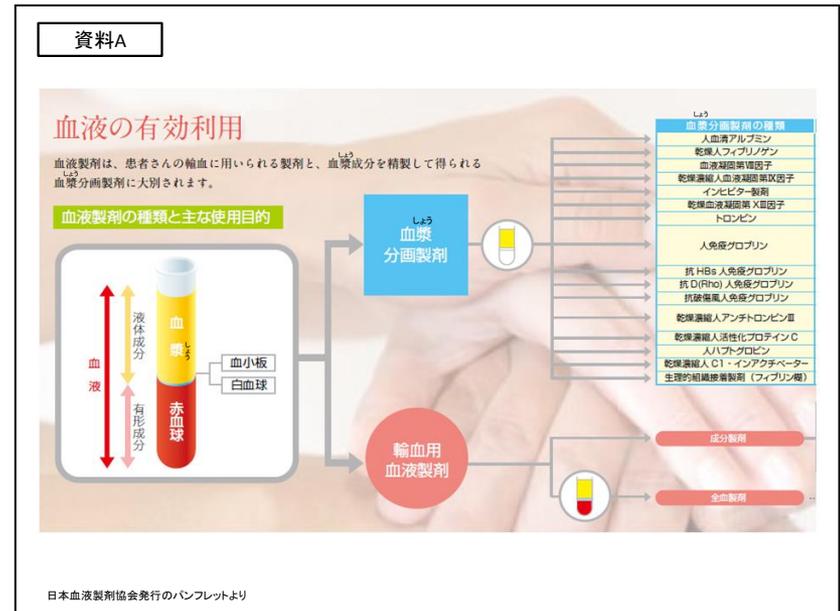
Q4-1. 資料A理解度_血液の構成

- 全体 : 資料A(血液の構成)の理解度をたずねたところ、「理解できた」+「ある程度理解できた」の“理解計”で見ると、80.9%が理解できたと回答。
- 冊子閲覧 : 冊子を『見る』人は資料A(血液の構成)の理解度について、「理解できた」が全体と比べて10ポイント以上高い。
- 献血への関心 : 献血への『関心がある』人は資料A(血液の構成)の理解度について、「理解できた」が全体と比べて10ポイント以上高い。
- 献血経験 : 献血経験が『10回以上』ある人は資料A(血液の構成)の理解度について、「理解できた」が全体と比べて10ポイント以上高い。『分からない/覚えていない』人は「理解できなかった」が全体と比べて10ポイント以上高い。



	サンプル数	理解度				理解計 (%)	
		理解できた	ある程度理解できた	あまり理解できなかった	理解できなかった		
全体	2,000	31.2	49.7	12.6	6.6	80.9	
性別	男性	1,000	30.5	50.2	13.0	6.3	80.7
	女性	1,000	31.8	49.2	12.2	6.8	81.0
年代	20代	400	26.3	47.3	15.3	11.3	73.5
	30代	400	29.3	52.3	9.5	9.0	81.5
	40代	400	30.8	48.5	14.0	6.8	79.3
	50代	400	32.8	52.5	11.8	3.0	85.3
	60代以上	400	36.8	48.0	12.5	2.8	84.8
F7.待合室にある冊子閲覧	見る	204	49.5	38.7	6.4	5.4	88.2
	ときどき見る	690	36.2	51.4	9.4	2.9	87.7
	あまり見ない	538	28.6	53.0	15.1	3.3	81.6
Q1.献血への関心	関心がある	568	20.8	48.4	16.4	14.4	69.2
	関心がある	298	55.7	35.2	5.7	3.4	90.9
	やや関心がある	561	29.6	57.0	10.0	3.4	86.6
Q2.献血経験	あまり関心がない	639	28.6	52.4	15.0	3.9	81.1
	関心がない	502	21.5	46.6	16.5	15.3	68.1
	10回以上	279	47.7	42.3	7.5	2.5	90.0
Q2.献血経験	1~9回	731	32.8	51.8	11.4	4.0	84.7
	献血した経験はない	902	26.2	51.7	14.6	7.5	77.8
	分からない/覚えていない	88	15.9	35.2	18.2	30.7	51.1

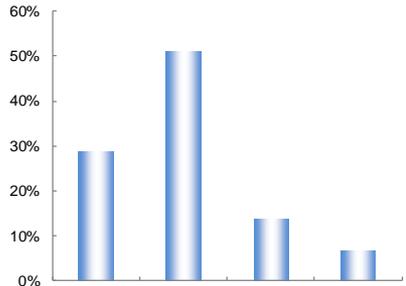
理解計



全体より10ポイント以上高い (Pink) 全体より5ポイント以上高い (Orange) 全体より10ポイント以上低い (Blue)

Q4-2. 資料A理解度_血液から輸血用血液製剤がつけられること

- 全体 : 資料A(血液から輸血用血液製剤がつけられること)の理解度をたずねたところ、「理解できた」+「ある程度理解できた」の“理解計”で見ると、79.8%が理解できたと回答。
- 冊子閲覧 : 冊子を『見る』人は資料A(血液から輸血用血液製剤がつけられること)の理解度について、「理解できた」が全体と比べて10ポイント以上高い。
- 献血への関心 : 献血への『関心がある』人は資料A(血液から輸血用血液製剤がつけられること)の理解度について、「理解できた」が全体と比べて10ポイント以上高い。
- 献血経験 : 献血経験が『10回以上』ある人は「理解できた」が全体と比べて10ポイント以上高い。『分からない/覚えていない』人は「理解できなかった」が全体と比べて10ポイント以上高い。

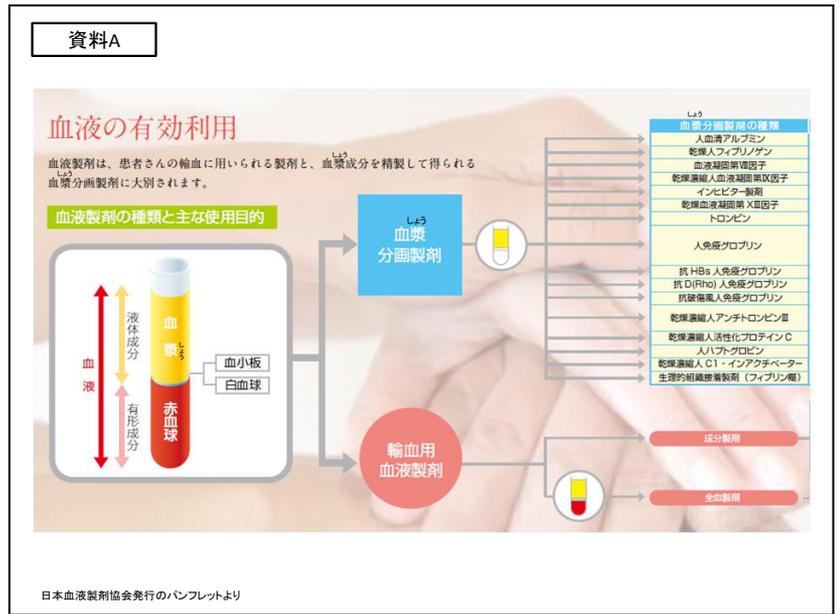


		サンプル数	理解できた	ある程度理解できた	あまり理解できなかった	理解できなかった
全体		2,000	28.8	51.0	13.8	6.5
性別	男性	1,000	28.8	51.9	13.3	6.0
	女性	1,000	28.8	50.0	14.3	6.9
年代	20代	400	24.3	47.3	16.8	11.8
	30代	400	25.3	54.0	12.8	8.0
	40代	400	28.0	50.5	14.8	6.8
	50代	400	30.8	54.5	11.5	3.3
	60代以上	400	35.8	48.5	13.3	2.5
F7.待合室にある冊子閲覧	見る	204	49.0	38.7	6.9	5.4
	ときどき見る	690	32.0	54.5	11.0	2.5
	あまり見ない	538	25.8	54.5	15.4	4.3
Q1. 献血への関心	関心がある	568	20.4	47.7	18.1	13.7
	関心がある	298	49.7	41.6	6.0	2.7
	やや関心がある	561	28.7	56.0	11.9	3.4
	あまり関心がない	639	26.1	54.1	16.1	3.6
Q2. 献血経験	関心がない	502	19.9	46.8	17.5	15.7
	10回以上	279	43.7	44.8	9.3	2.2
	1~9回	731	30.8	53.1	12.2	4.0
	献血した経験はない	902	23.9	52.3	16.1	7.6
		88	14.8	38.6	18.2	28.4

理解計
↓

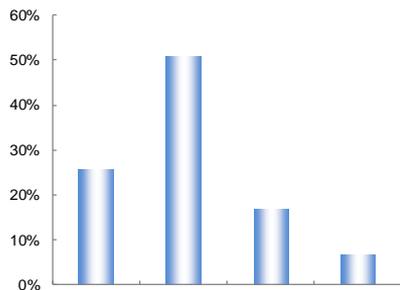
79.8
80.7
78.8
71.5
79.3
78.5
85.3
84.3
87.7
86.5
80.3
68.1
91.3
84.7
80.3
66.7
88.5
83.9
76.3
53.4

全体より10ポイント以上高い 全体より5ポイント以上高い 全体より10ポイント以上低い

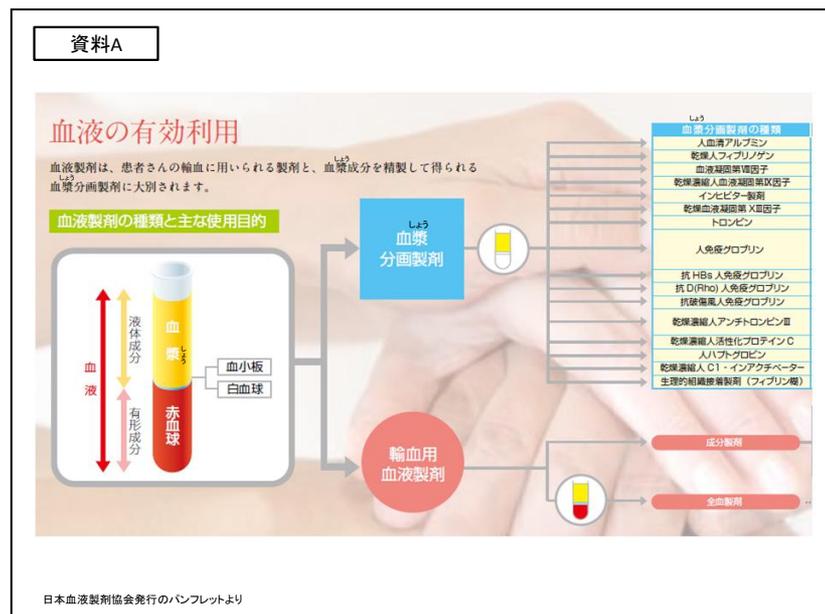


Q4-3. 資料A理解度_血液から血漿分画製剤がつけられること

- 全体 : 資料A(血液から血漿分画製剤がつけられること)の理解度をたずねたところ、「理解できた」+「ある程度理解できた」の“理解計”で見ると、76.4%が理解できたと回答。
- 冊子閲覧 : 冊子を『見る』人は資料A(血液から血漿分画製剤がつけられること)の理解度について、「理解できた」が全体と比べて10ポイント以上高い。
- 献血への関心 : 献血への『関心がある』人は資料A(血液から血漿分画製剤がつけられること)の理解度について、「理解できた」が全体と比べて10ポイント以上高い。
- 献血経験 : 献血経験が『10回以上』ある人は資料A(血液から血漿分画製剤がつけられること)の理解度について、「理解できた」が全体と比べて10ポイント以上高い。『分からない/覚えていない』人は「理解できなかった」が全体と比べて10ポイント以上高い。



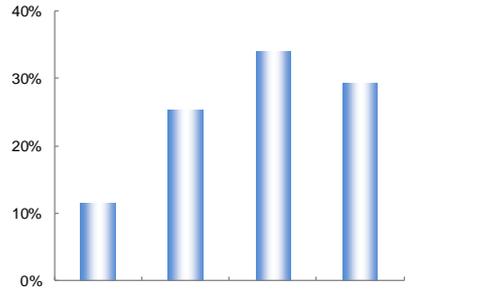
		サンプル数	理解できた	ある程度理解できた	あまり理解できなかった	理解できなかった	理解計
全体		2,000	25.6	50.8	16.9	6.7	76.4
性別	男性	1,000	25.5	51.6	16.5	6.4	77.1
	女性	1,000	25.7	50.0	17.3	7.0	75.7
年代	20代	400	21.0	48.0	19.3	11.8	69.0
	30代	400	23.0	52.8	16.3	8.0	75.8
	40代	400	26.0	50.3	16.5	7.3	76.3
	50代	400	26.5	54.3	15.8	3.5	80.8
	60代以上	400	31.5	48.8	16.8	3.0	80.3
	F7.待合室にある冊子閲覧	見る	204	44.6	41.2	9.3	4.9
	ときどき見る	690	28.8	55.1	13.0	3.0	83.9
	あまり見ない	538	22.5	53.7	19.7	4.1	76.2
	見ない	568	17.8	46.3	21.7	14.3	64.1
Q1. 献血への関心	関心がある	298	46.3	43.3	7.4	3.0	89.6
	やや関心がある	561	24.8	56.7	15.2	3.4	81.5
	あまり関心がない	639	22.8	52.9	20.2	4.1	75.7
	関心がない	502	17.7	46.0	20.3	15.9	63.7
Q2. 献血経験	10回以上	279	41.9	45.9	10.0	2.2	87.8
	1~9回	731	26.1	52.8	16.6	4.5	78.9
	献血した経験はない	902	21.5	51.8	18.8	7.9	73.3
	分からない/覚えていない	88	11.4	39.8	21.6	27.3	51.1



全体より10ポイント以上高い (Pink) 全体より5ポイント以上高い (Orange) 全体より10ポイント以上低い (Blue)

Q5-1. 認知度_輸血用血液製剤の精製方法

- 全体 : 輸血用血液製剤の精製方法の認知度をたずねたところ、「知っている」+「ある程度知っている」の“知っている計”で見ると、36.8%が知っていると回答。
- 冊子閲覧 : 冊子を『見る』人は輸血用血液製剤の精製方法の認知度について、「知っている」が全体と比べて10ポイント以上高い。『見ない』人は「知らない」が全体と比べて10ポイント以上高い。
- 献血への関心 : 献血への『関心がある』人は輸血用血液製剤の精製方法の認知度について、「知っている」が全体と比べて10ポイント以上高い。『関心がない』人は「知らない」が全体と比べて10ポイント以上高い。
- 献血経験 : 献血経験が『10回以上』ある人は輸血用血液製剤の精製方法の認知度について、「知っている」が全体と比べて10ポイント以上高い。『分からない/覚えていない』人は「知らない」が全体と比べて10ポイント以上高い。

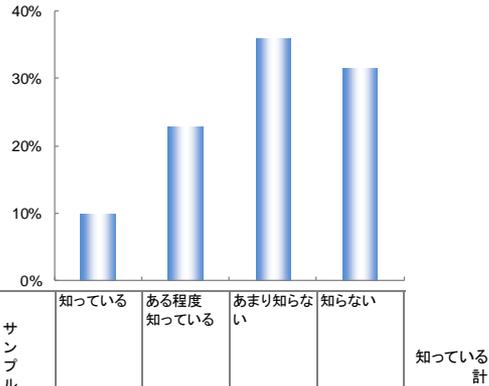


	サンプル数	認知度				知っている計	
		知っている	ある程度知っている	あまり知らない	知らない		
全体	2,000	11.5	25.3	34.0	29.2	36.8	
性別	男性	1,000	12.3	28.1	33.7	25.9	40.4
	女性	1,000	10.7	22.5	34.3	32.5	33.2
年代	20代	400	9.8	20.8	30.8	38.8	30.5
	30代	400	8.5	24.8	31.8	35.0	33.3
	40代	400	11.5	23.3	34.5	30.8	34.8
	50代	400	12.3	28.8	36.8	22.3	41.0
	60代以上	400	15.5	29.0	36.3	19.3	44.5
	F7. 待合室にある冊子閲覧	204	28.4	31.9	20.6	19.1	60.3
Q1. 献血への関心	ときどき見る	690	13.2	29.9	34.5	22.5	43.0
	あまり見ない	538	9.7	24.2	40.3	25.8	33.8
	見ない	568	5.1	18.5	32.2	44.2	23.6
	関心がある	298	27.5	28.2	24.2	20.1	55.7
Q2. 献血経験	やや関心がある	561	12.3	32.8	33.2	21.7	45.1
	あまり関心がない	639	6.9	22.8	41.0	29.3	29.7
	関心がない	502	7.0	18.3	31.9	42.8	25.3
Q2. 献血経験	10回以上	279	25.8	30.8	26.9	16.5	56.6
	1~9回	731	12.3	30.0	33.0	24.8	42.3
	献血した経験はない	902	7.4	20.2	37.0	35.4	27.6
	分からない/覚えていない	88	1.1	21.6	34.1	43.2	22.7

全体より10ポイント以上高い
全体より5ポイント以上高い
全体より10ポイント以上低い

Q5-2. 認知度_血漿分画製剤の精製方法

- 全体 : 血漿分画製剤の精製方法の認知度をたずねたところ、「知っている」+「ある程度知っている」の“知っている計”で見ると、32.7%が知っていると回答。
- 冊子閲覧 : 冊子を『見る』人は血漿分画製剤の精製方法について、「知っている」が全体と比べて10ポイント以上高い。『見ない』人は「知らない」が全体と比べて10ポイント以上高い。
- 献血への関心 : 献血への『関心がある』人は血漿分画製剤の精製方法について、「知っている」が全体と比べて10ポイント以上高い。『関心がない』人は「知らない」が全体と比べて10ポイント以上高い。
- 献血経験 : 献血経験が『10回以上』ある人は血漿分画製剤の精製方法について、「知っている」が全体と比べて10ポイント以上高い。『分からない/覚えていない』人は「知らない」が全体と比べて10ポイント以上高い。

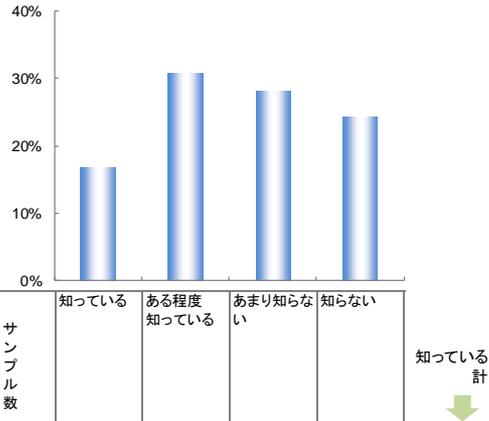


	サンプル数	認知度				知っている計
		知っている	ある程度知っている	あまり知らない	知らない	
全体	2,000	10.0	22.8	35.9	31.5	32.7
性別	男性	10.5	24.6	36.0	28.9	35.1
	女性	9.4	20.9	35.7	34.0	30.3
年代	20代	8.3	19.5	31.8	40.5	27.8
	30代	7.3	23.0	32.8	37.0	30.3
	40代	10.0	23.3	33.8	33.0	33.3
	50代	10.8	24.3	40.3	24.8	35.0
	60代以上	13.5	23.8	40.8	22.0	37.3
	F7.待合室にある冊子閲覧	204	24.0	31.9	22.1	22.1
Q1. 献血への関心	ときどき見る	11.6	26.7	37.5	24.2	38.3
	あまり見ない	8.4	20.6	42.0	29.0	29.0
	見ない	4.4	16.7	32.9	46.0	21.1
	関心がある	24.5	27.2	27.5	20.8	51.7
Q2. 献血経験	やや関心がある	10.2	29.8	34.8	25.3	39.9
	あまり関心がない	5.9	19.4	42.9	31.8	25.4
	関心がない	6.2	16.5	33.1	44.2	22.7
Q2. 献血経験	10回以上	22.9	30.8	28.3	17.9	53.8
	1~9回	10.0	26.0	36.8	27.2	36.0
	献血した経験はない	6.8	17.8	37.8	37.6	24.6
	分からない/覚えていない	1.1	20.5	31.8	46.6	21.6

全体より10ポイント以上高い
全体より5ポイント以上高い
全体より10ポイント以上低い

Q6-1. 認知度_輸血用血液製剤の使用目的

- 全体 : 輸血用血液製剤の使用目的の認知度をたずねたところ、「知っている」+「ある程度知っている」の“知っている計”で見ると、47.5%が知っていると回答。
- 冊子閲覧 : 冊子を『見る』人は輸血用血液製剤の使用目的の認知度について、「知っている」が全体と比べて10ポイント以上高い。『見ない』人は「知らない」が全体と比べて10ポイント以上高い。
- 献血への関心 : 献血への『関心がある』人は輸血用血液製剤の使用目的の認知度について、「知っている」が全体と比べて10ポイント以上高い。『関心がない』人は「知らない」が全体と比べて10ポイント以上高い。
- 献血経験 : 献血経験が『10回以上』ある人は輸血用血液製剤の使用目的の認知度について、「知っている」が全体と比べて10ポイント以上高い。『分からない/覚えていない』人は「知らない」が全体と比べて10ポイント以上高い。

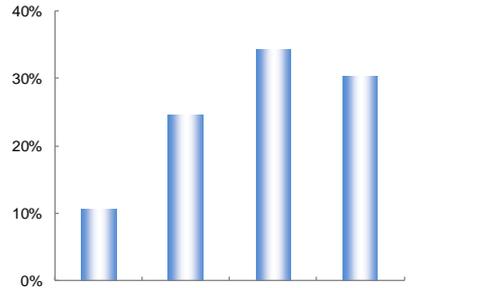


	サンプル数	知っている				知っている計
		知っている	ある程度知っている	あまり知らない	知らない	
全体	2,000	16.8	30.7	28.2	24.3	47.5
性別	男性	17.5	30.0	30.9	21.6	47.5
	女性	16.1	31.4	25.5	27.0	47.5
年代	20代	17.0	24.8	27.8	30.5	41.8
	30代	12.5	31.3	25.0	31.3	43.8
	40代	14.3	29.5	29.3	27.0	43.8
	50代	16.8	34.0	29.3	20.0	50.8
	60代以上	23.5	34.0	29.8	12.8	57.5
F7. 待合室にある冊子閲覧	見る	33.3	34.3	14.7	17.6	67.6
	ときどき見る	20.0	34.8	28.1	17.1	54.8
	あまり見ない	13.8	32.3	31.8	22.1	46.1
	見ない	9.9	22.9	29.8	37.5	32.7
Q1. 献血への関心	関心がある	32.9	29.2	21.8	16.1	62.1
	やや関心がある	16.4	38.1	26.7	18.7	54.5
	あまり関心がない	13.8	30.4	34.6	21.3	44.1
	関心がない	11.6	23.7	25.5	39.2	35.3
Q2. 献血経験	10回以上	28.3	33.0	26.5	12.2	61.3
	1~9回	18.1	36.0	27.1	18.9	54.0
	献血した経験はない	13.4	26.7	29.0	30.8	40.1
	分からない/覚えていない	4.5	20.5	34.1	40.9	25.0

全体より10ポイント以上高い
全体より5ポイント以上高い
全体より10ポイント以上低い

Q6-2. 認知度_血漿分画製剤の使用目的

- 全体 : 血漿分画製剤の使用目的の認知度をたずねたところ、「知っている」+「ある程度知っている」の“知っている計”で見ると、35.4%が知っていると回答。
- 年代別 : 『60代以上』は血漿分画製剤の使用目的の認知度について、「知らない」が全体と比べて10ポイント以上低い。
- 冊子閲覧 : 冊子を『見る』人は血漿分画製剤の使用目的の認知度について、「知っている」が全体と比べて10ポイント以上高い。『見ない』人は「知らない」が全体と比べて10ポイント以上高い。
- 献血への関心 : 献血への『関心がある』人は血漿分画製剤の使用目的の認知度について、「知っている」が全体と比べて10ポイント以上高い。『関心がない』人は「知らない」が全体と比べて10ポイント以上高い。
- 献血経験 : 献血経験が『10回以上』ある人は血漿分画製剤の使用目的の認知度について、「知っている」が全体と比べて10ポイント以上高い。『分からない/覚えていない』人は「知らない」が全体と比べて10ポイント以上高い。

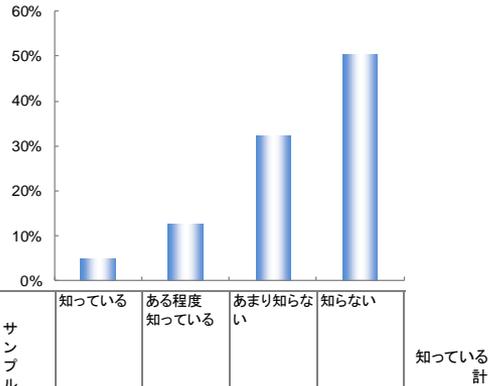


	サンプル数	認知度				知っている計	
		知っている	ある程度知っている	あまり知らない	知らない		
全体	2,000	10.7	24.7	34.3	30.4	35.4	
性別	男性	1,000	10.8	26.6	35.4	27.2	37.4
	女性	1,000	10.5	22.8	33.1	33.6	33.3
年代	20代	400	9.3	20.5	31.0	39.3	29.8
	30代	400	8.0	26.0	28.3	37.8	34.0
	40代	400	10.8	22.8	34.0	32.5	33.5
	50代	400	10.8	26.3	40.0	23.0	37.0
	60代以上	400	14.5	28.0	38.0	19.5	42.5
	F7.待合室にある冊子閲覧	204	25.5	30.4	22.5	21.6	55.9
Q1. 献血への関心	ときどき見る	690	12.5	29.1	35.5	22.9	41.6
	あまり見ない	538	8.4	24.0	39.6	28.1	32.3
	見ない	568	5.3	18.0	31.9	44.9	23.2
	関心がある	298	27.5	24.5	28.9	19.1	52.0
Q2. 献血経験	やや関心がある	561	10.2	31.6	33.7	24.6	41.7
	あまり関心がない	639	5.8	22.8	42.3	29.1	28.6
	関心がない	502	7.4	19.5	27.9	45.2	26.9
Q2. 献血経験	10回以上	279	23.7	28.0	32.3	16.1	51.6
	1~9回	731	11.4	29.5	32.7	26.4	40.9
	献血した経験はない	902	6.8	20.4	36.0	36.8	27.2
	分からない/覚えていない	88	3.4	18.2	35.2	43.2	21.6

全体より10ポイント以上高い
全体より5ポイント以上高い
全体より10ポイント以上低い

Q7. 難病患者の血漿分画製剤使用認知

- 全体 : 難病患者の血漿分画製剤使用の認知度をたずねたところ、「知っている」+「ある程度知っている」の“知っている計”で見ると、17.6%が知っていると回答。
- 冊子閲覧 : 冊子を『見る』人は難病患者の血漿分画製剤使用の認知度について、「知っている」「ある程度知っている」が全体と比べてそれぞれ10ポイント以上高い。『見ない』人は「知らない」が全体と比べて10ポイント以上高い。
- 献血への関心 : 献血への『関心がある』人は「知っている」が全体と比べて10ポイント以上高い。『関心がない』人は「知らない」が全体と比べて10ポイント以上高い。

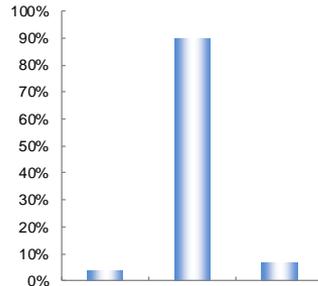


		サンプル数	認知度				知っている計
			知っている	ある程度知っている	あまり知らない	知らない	
	全体	2,000	4.9	12.7	32.2	50.2	17.6
性別	男性	1,000	5.7	14.1	33.1	47.1	19.8
	女性	1,000	4.1	11.3	31.3	53.3	15.4
年代	20代	400	5.8	12.8	27.3	54.3	18.5
	30代	400	4.8	11.5	29.0	54.8	16.3
	40代	400	4.8	10.0	34.5	50.8	14.8
	50代	400	4.0	14.8	34.3	47.0	18.8
	60代以上	400	5.3	14.5	36.0	44.3	19.8
	F7.待合室にある冊子閲覧	見る	204	19.6	24.0	22.5	33.8
	ときどき見る	690	4.5	17.0	33.9	44.6	21.4
	あまり見ない	538	3.0	9.1	40.1	47.8	12.1
	見ない	568	1.9	6.9	26.1	65.1	8.8
Q1. 献血への関心	関心がある	298	17.4	17.4	26.5	38.6	34.9
	やや関心がある	561	4.1	18.9	33.5	43.5	23.0
	あまり関心がない	639	1.4	9.5	41.2	47.9	11.0
	関心がない	502	2.8	7.0	22.7	67.5	9.8
Q2. 献血経験	10回以上	279	14.7	14.3	30.1	40.9	29.0
	1~9回	731	5.5	16.3	33.5	44.7	21.8
	献血した経験はない	902	1.8	9.9	31.7	56.7	11.6
	分からない/覚えていない	88	1.1	6.8	33.0	59.1	8.0

全体より10ポイント以上高い
全体より5ポイント以上高い
全体より10ポイント以上低い

Q8-1. 自身の治療経験_輸血用血液製剤

- 全体 : 自身の輸血用血液製剤を使った治療経験をたずねたところ、「ある」が3.6%となっており、回答者のほとんどが輸血用血液製剤での治療経験がないと回答。
- 冊子閲覧 : 冊子を『見る』人は自身の輸血用血液製剤を使った治療経験について、「ある」が全体と比べて10ポイント以上高い。
- 献血経験 : 献血経験が『分からない/覚えていない』人は自身の輸血用血液製剤を使った治療経験について、「わからない/覚えていない」が全体と比べて10ポイント以上高い。

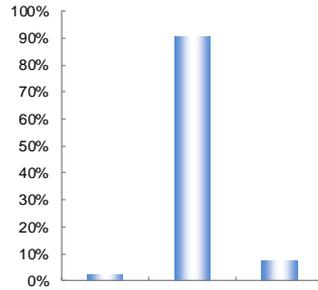


	サンプル数	ある	ない	わからない/覚えていない
全体	2,000	3.6	89.6	6.9
性別	男性	3.6	89.0	7.4
	女性	3.5	90.1	6.4
年代	20代	5.5	85.0	9.5
	30代	3.5	89.3	7.3
	40代	3.0	90.8	6.3
	50代	1.3	93.0	5.8
	60代以上	4.5	89.8	5.8
	F7.待合室にある冊子閲覧	204	14.7	81.9
Q1. 献血への関心	ときどき見る	3.2	90.0	6.8
	あまり見ない	2.0	92.9	5.0
	見ない	1.4	88.6	10.0
	関心がある	298	7.0	89.3
Q2. 献血経験	やや関心がある	5.3	87.9	6.8
	あまり関心がない	1.6	91.4	7.0
	関心がない	2.0	89.2	8.8
Q2. 献血経験	10回以上	5.0	89.2	5.7
	1~9回	4.5	90.2	5.3
	献血した経験はない	2.5	91.4	6.1
	分からない/覚えていない	1.1	67.0	31.8

全体より10ポイント以上高い
全体より5ポイント以上高い
全体より10ポイント以上低い

Q8-2. 自身の治療経験_血漿分画製剤

- 全体 : 自身の血漿分画製剤を使った治療経験をたずねたところ、「ある」が2.2%となっており、回答者のほとんどが血漿分画製剤での治療経験がないと回答。
- 献血経験 : 献血経験が『分からない/覚えていない』人は自身の血漿分画製剤を使った治療経験について、「わからない/覚えていない」が全体と比べて10ポイント以上高い。

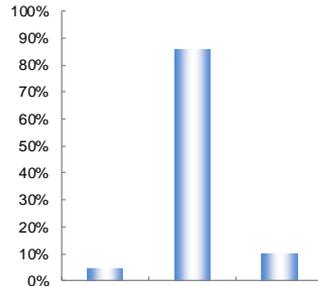


		サンプル数	ある	ない	わからない/覚えていない
	全体	2,000	2.2	90.4	7.5
性別	男性	1,000	2.9	89.1	8.0
	女性	1,000	1.4	91.7	6.9
年代	20代	400	4.0	85.3	10.8
	30代	400	2.3	89.5	8.3
	40代	400	1.3	91.8	7.0
	50代	400	1.0	93.8	5.3
	60代以上	400	2.3	91.8	6.0
	見る	204	9.8	87.3	2.9
F7.待合室にある冊子閲覧	ときどき見る	690	2.3	90.6	7.1
	あまり見ない	538	0.9	93.5	5.6
	見ない	568	0.4	88.4	11.3
Q1. 献血への関心	関心がある	298	6.0	90.3	3.7
	やや関心がある	561	2.9	89.3	7.8
	あまり関心がない	639	1.3	91.2	7.5
	関心がない	502	0.2	90.6	9.2
Q2. 献血経験	10回以上	279	4.7	90.0	5.4
	1~9回	731	3.0	91.2	5.7
	献血した経験はない	902	0.8	92.1	7.1
	分からない/覚えていない	88	1.1	67.0	31.8

全体より10ポイント以上高い
全体より5ポイント以上高い
全体より10ポイント以上低い

Q9-1. 家族・友人の治療経験_輸血用血液製剤

- 全体 : 家族・友人の輸血用血液製剤を使った治療経験をたずねたところ、「ある」が4.5%となっており、回答者のほとんどが家族・友人に輸血用血液製剤での治療経験がないと回答。
- 冊子閲覧 : 冊子を『見る』人は家族・友人の輸血用血液製剤を使った治療経験について、「ある」が全体と比べて10ポイント以上高い。
- 献血経験 : 献血経験が『分からない/覚えていない』人は家族・友人の輸血用血液製剤を使った治療経験について、「わからない/覚えていない」が全体と比べて10ポイント以上高い。

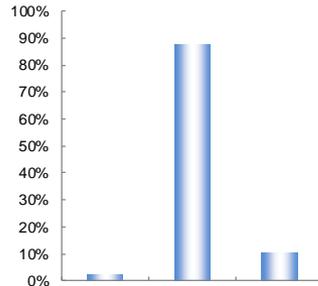


	サンプル数	ある	ない	わからない/覚えていない
全体	2,000	4.5	85.8	9.8
性別	男性	4.6	84.8	10.6
	女性	4.3	86.7	9.0
年代	20代	4.8	82.5	12.8
	30代	4.5	84.8	10.8
	40代	4.3	87.3	8.5
	50代	4.3	88.0	7.8
	60代以上	4.5	86.3	9.3
	F7. 待合室にある冊子閲覧	204	14.7	78.9
Q1. 献血への関心	ときどき見る	5.4	84.6	10.0
	あまり見ない	2.4	90.3	7.2
	見ない	1.6	85.2	13.2
	関心がある	298	9.7	83.2
Q2. 献血経験	やや関心がある	5.1	83.8	10.2
	あまり関心がない	2.2	88.3	9.5
	関心がない	2.4	86.3	11.4
	10回以上	279	8.6	82.8
Q2. 献血経験	1~9回	5.5	85.6	8.9
	献血した経験はない	2.7	88.4	9.0
	分からない/覚えていない	1.1	69.3	29.5
	見ない	568	1.6	85.2

全体より10ポイント以上高い
全体より5ポイント以上高い
全体より10ポイント以上低い

Q9-2. 家族・友人の治療経験_血漿分画製剤

- 全体 : 家族・友人の血漿分画製剤を使った治療経験をたずねたところ、「ある」が2.2%となっており、回答者のほとんどが家族・友人に血漿分画製剤での治療経験がないと回答。
- 冊子閲覧 : 冊子を『見る』人は家族・友人の血漿分画製剤を使った治療経験について、「ある」が全体と比べて10ポイント以上高い。
- 献血経験 : 献血経験が『分からない/覚えていない』人は家族・友人の血漿分画製剤を使った治療経験について、「わからない/覚えていない」が全体と比べて10ポイント以上高い。

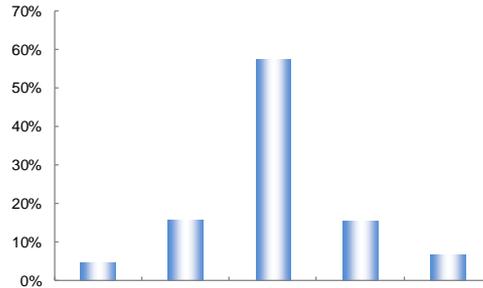


		サンプル数	ある	ない	わからない/覚えていない
	全体	2,000	2.2	87.2	10.6
性別	男性	1,000	2.7	86.3	11.0
	女性	1,000	1.7	88.1	10.2
年代	20代	400	4.0	83.0	13.0
	30代	400	3.0	85.3	11.8
	40代	400	2.0	88.0	10.0
	50代	400	1.0	90.8	8.3
	60代以上	400	1.0	89.0	10.0
	F7.待合室にある冊子閲覧	見る	204	12.7	80.4
	ときどき見る	690	2.0	86.7	11.3
	あまり見ない	538	0.6	91.6	7.8
	見ない	568	0.2	86.1	13.7
Q1. 献血への関心	関心がある	298	6.7	84.9	8.4
	やや関心がある	561	3.4	85.4	11.2
	あまり関心がない	639	0.3	89.0	10.6
	関心がない	502	0.6	88.2	11.2
Q2. 献血経験	10回以上	279	5.0	84.9	10.0
	1~9回	731	3.0	87.4	9.6
	献血した経験はない	902	0.8	89.4	9.9
	分からない/覚えていない	88	1.1	70.5	28.4

全体より10ポイント以上高い
全体より5ポイント以上高い
全体より10ポイント以上低い

Q10. 血漿分画製剤に対する安全性イメージ

- 全体 : 血漿分画製剤に対する安全性イメージをたずねたところ、「安全そうだと思う」+「やや安全そうだと思う」の“安全計”で見ると、20.6%が安全そうだと回答。
- 冊子閲覧 : 冊子を『見る』人は血漿分画製剤に対する安全性イメージについて、「安全そうだと思う」が全体と比べて10ポイント以上高い。
- 献血への関心 : 献血への『関心がある』人は血漿分画製剤に対する安全性イメージについて、「安全そうだと思う」が全体と比べて10ポイント以上高い。
- 献血経験 : 献血経験が『10回以上』ある人は血漿分画製剤に対する安全性イメージについて、「安全そうだと思う」が全体と比べて10ポイント以上高い。『分からない/覚えていない』人は「安全そうと思わない」が全体と比べて10ポイント以上高い。



	サンプル数	安全性イメージ					安全計	
		安全そう と思う	やや安全 そう と思う	どちらとも えない	あまり安全 そうだと 思わ ない	安全そう と思わ ない		
全体	2,000	4.9	15.7	57.5	15.5	6.6	20.6	
性別	男性	1,000	6.0	16.9	56.7	13.1	7.3	22.9
	女性	1,000	3.8	14.4	58.2	17.8	5.8	18.2
年代	20代	400	4.0	14.5	56.8	14.0	10.8	18.5
	30代	400	5.5	14.3	58.3	15.0	7.0	19.8
	40代	400	3.8	15.0	57.5	15.8	8.0	18.8
	50代	400	5.3	15.3	60.8	14.8	4.0	20.5
	60代以上	400	6.0	19.3	54.0	17.8	3.0	25.3
	F7.待合室にある冊子閲覧	204	16.2	22.5	38.2	16.7	6.4	38.7
Q1. 献血への関心	関心がある	298	15.4	25.5	46.3	9.7	3.0	40.9
	やや関心がある	561	5.2	20.3	58.3	13.9	2.3	25.5
	あまり関心がない	639	1.9	13.6	64.0	16.4	4.1	15.5
Q2. 献血経験	関心がない	502	2.2	7.2	54.8	19.3	16.5	9.4
	10回以上	279	16.5	21.1	48.0	11.1	3.2	37.6
	1~9回	731	4.0	19.3	60.1	13.4	3.3	23.3
	献血した経験はない	902	2.2	11.9	58.9	18.7	8.3	14.1
	分からない/覚えていない	88	3.4	6.8	51.1	12.5	26.1	10.2

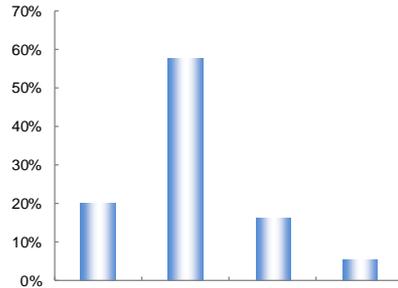
安全計



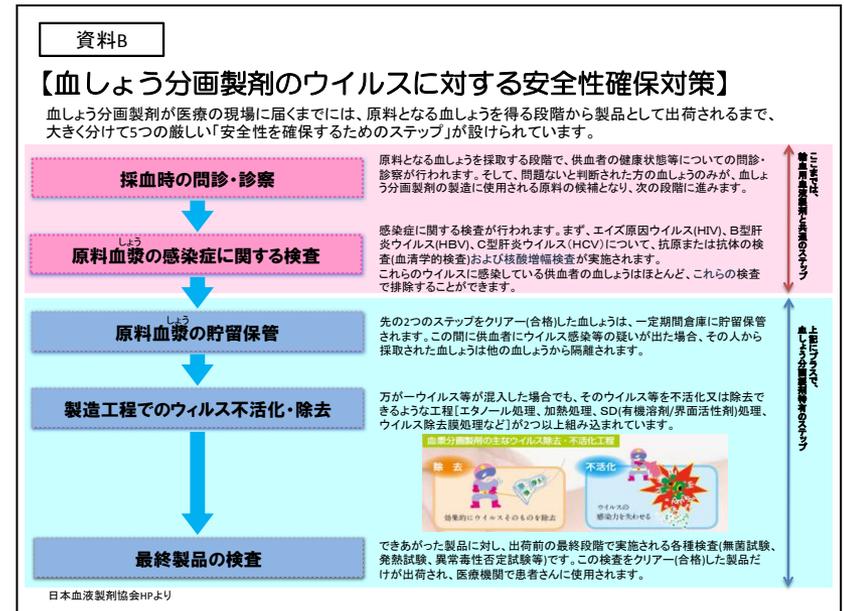
全体より10ポイント以上高い
全体より5ポイント以上高い
全体より10ポイント以上低い

Q11-1. 資料B理解度_出荷までの5つの厳しい対策

- 全体 : 資料B(出荷までの5つの厳しい対策)の理解度をたずねたところ、「理解できた」+「ある程度理解できた」の“理解計”で見ると、78.0%が理解できたと回答。
- 冊子閲覧 : 冊子を『見る』人は資料B(出荷までの5つの厳しい対策)の理解度について、「理解できた」が全体と比べて10ポイント以上高い。
- 献血への関心 : 献血への『関心がある』人は資料B(出荷までの5つの厳しい対策)の理解度について、「理解できた」が全体と比べて10ポイント以上高い。
- 献血経験 : 献血経験が『10回以上』ある人は資料B(出荷までの5つの厳しい対策)の理解度について、「理解できた」が全体と比べて10ポイント以上高い。『分からない/覚えていない』人は「理解できなかった」が全体と比べて10ポイント以上高い。



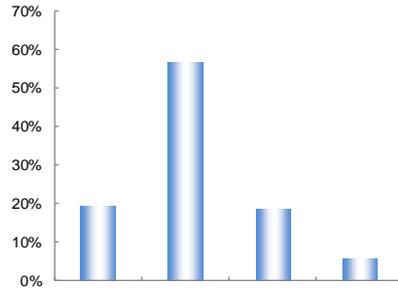
	サンプル数	理解度				理解計 (%)
		理解できた	ある程度理解できた	あまり理解できなかった	理解できなかった	
全体	2,000	20.4	57.6	16.5	5.6	78.0
性別	男性	20.1	57.0	17.4	5.5	77.1
	女性	20.6	58.2	15.6	5.6	78.8
年代	20代	18.0	50.3	22.8	9.0	68.3
	30代	18.3	60.0	12.5	9.3	78.3
	40代	19.8	58.8	16.5	5.0	78.5
	50代	19.0	63.5	14.8	2.8	82.5
	60代以上	26.8	55.5	16.0	1.8	82.3
	見る	204	41.7	46.1	9.3	2.9
F7.待合室にある冊子閲覧	ときどき見る	23.3	63.9	10.1	2.6	87.2
	あまり見ない	15.4	61.9	19.5	3.2	77.3
	見ない	13.7	50.0	23.9	12.3	63.7
Q1. 献血への関心	関心がある	38.6	53.4	5.7	2.3	91.9
	やや関心がある	20.7	62.6	13.9	2.9	83.2
	あまり関心がない	17.5	59.5	20.2	2.8	77.0
	関心がない	12.7	52.2	21.1	13.9	64.9
Q2. 献血経験	10回以上	30.5	59.5	6.8	3.2	90.0
	1~9回	21.8	60.2	15.2	2.9	81.9
	献血した経験はない	17.2	56.5	20.0	6.3	73.7
	分からない/覚えていない	9.1	40.9	22.7	27.3	50.0



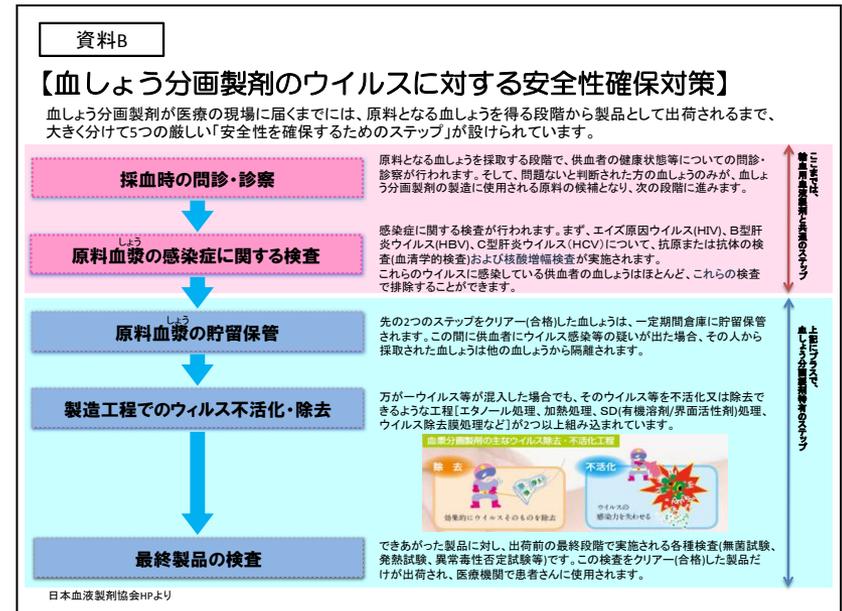
全体より10ポイント以上高い (オレンジ色) 全体より5ポイント以上高い (黄色) 全体より10ポイント以上低い (青色)

Q11-2. 資料B理解度_血漿分画製剤特有の対策

- 全体 : 資料B(血漿分画製剤特有の対策)の理解度をたずねたところ、「理解できた」+「ある程度理解できた」の“理解計”で見ると、75.7%が理解できたと回答。
- 冊子閲覧 : 冊子を『見る』人は資料B(血漿分画製剤特有の対策)の理解度について、「理解できた」が全体と比べて10ポイント以上高い。
- 献血への関心 : 献血への『関心がある』人は資料B(血漿分画製剤特有の対策)の理解度について、「理解できた」が全体と比べて10ポイント以上高い。
- 献血経験 : 献血経験が『10回以上』ある人は資料B(血漿分画製剤特有の対策)の理解度について、「理解できた」が全体と比べて10ポイント以上高い。『分からない/覚えていない』人は「理解できなかった」が全体と比べて10ポイント以上高い。



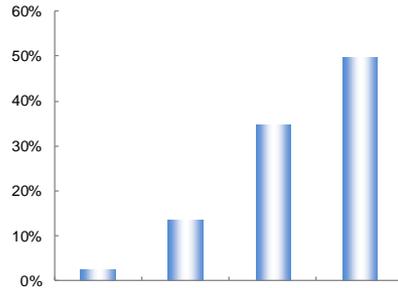
	サンプル数	理解度				理解計 (%)	
		理解できた	ある程度理解できた	あまり理解できなかった	理解できなかった		
全体	2,000	19.2	56.6	18.6	5.8	75.7	
性別	男性	19.6	55.5	19.0	5.9	75.1	
	女性	18.7	57.6	18.1	5.6	76.3	
年代	20代	16.5	49.3	24.5	9.8	65.8	
	30代	17.0	58.5	15.0	9.5	75.5	
	40代	18.8	57.5	18.8	5.0	76.3	
	50代	18.5	61.5	17.3	2.8	80.0	
	60代以上	25.0	56.0	17.3	1.8	81.0	
	見る	204	41.2	45.6	10.8	2.5	86.8
F7.待合室にある冊子閲覧	ときどき見る	22.0	62.2	13.0	2.8	84.2	
	あまり見ない	53.8	14.5	61.7	20.8	3.0	76.2
	見ない	56.8	12.1	48.8	25.9	13.2	60.9
Q1. 献血への関心	関心がある	37.6	51.7	8.1	2.7	89.3	
	やや関心がある	56.1	19.3	61.1	16.9	2.7	80.4
	あまり関心がない	63.9	16.0	58.8	22.2	3.0	74.8
	関心がない	50.2	12.2	51.4	21.9	14.5	63.5
Q2. 献血経験	10回以上	29.7	56.6	10.4	3.2	86.4	
	1~9回	20.4	59.2	17.1	3.3	79.6	
	献血した経験はない	16.0	56.1	21.5	6.4	72.1	
	分からない/覚えていない	8.0	38.6	26.1	27.3	46.6	



全体より10ポイント以上高い (オレンジ色) 全体より5ポイント以上高い (黄色) 全体より10ポイント以上低い (青色)

Q12. 安全対策取り組みの認知

- 全体 : 安全対策取り組みの認知度をたずねたところ、「知っていた」+「ある程度知っていた」の“知っていた計”で見ると、15.8%が知っていたと回答。
- 冊子閲覧 : 冊子を『見る』人は安全対策取り組みの認知度について、「ある程度知っていた」が全体と比べて10ポイント以上高い。『見ない』人は「知らなかった」が全体と比べて10ポイント以上高い。
- 献血への関心 : 献血への『関心がある』人は安全対策取り組みの認知度について、「ある程度知っていた」が全体と比べて10ポイント以上高い。『関心がない』人は「知らなかった」が全体と比べて10ポイント以上高い。
- 献血経験 : 献血経験が『10回以上』ある人は安全対策取り組みの認知度について、「ある程度知っていた」が全体と比べて10ポイント以上高い。

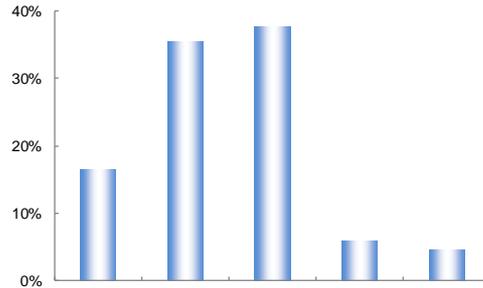


	サンプル数	知っていた計				知っていた計 (%)	
		知っていた	ある程度知っていた	あまり知らなかった	知らなかった		
全体	2,000	2.3	13.5	34.7	49.6	15.8	
性別	男性	1,000	3.3	15.0	37.2	44.5	18.3
	女性	1,000	1.3	12.0	32.1	54.6	13.3
年代	20代	400	4.0	12.0	28.5	55.5	16.0
	30代	400	1.5	13.8	34.3	50.5	15.3
	40代	400	3.0	13.8	32.8	50.5	16.8
	50代	400	1.3	15.0	38.8	45.0	16.3
	60代以上	400	1.8	13.0	39.0	46.3	14.8
F7.待合室にある冊子閲覧	見る	204	11.3	27.5	29.4	31.9	38.7
	ときどき見る	690	1.7	18.0	38.3	42.0	19.7
	あまり見ない	538	1.3	9.3	40.3	49.1	10.6
	見ない	568	0.7	7.0	26.8	65.5	7.7
Q1.献血への関心	関心がある	298	9.4	23.8	33.6	33.2	33.2
	やや関心がある	561	1.4	18.9	35.1	44.6	20.3
	あまり関心がない	639	0.8	8.9	41.6	48.7	9.7
	関心がない	502	1.0	7.2	25.9	65.9	8.2
Q2.献血経験	10回以上	279	6.5	24.0	37.3	32.3	30.5
	1~9回	731	2.5	15.5	35.7	46.4	17.9
	献血した経験はない	902	1.1	9.5	32.8	56.5	10.6
	分からない/覚えていない	88	-	4.5	36.4	59.1	4.5

全体より10ポイント以上高い
全体より5ポイント以上高い
全体より10ポイント以上低い

Q13. 安全対策取り組みの評価

- 全体 : 安全対策取り組みの評価をたずねたところ、「評価できる」+「やや評価できる」の“評価計”で見ると、51.9%が評価できると回答。
- 冊子閲覧 : 冊子を『見る』人は安全対策取り組みの評価について、「評価できる」が全体と比べて10ポイント以上高い。
- 献血への関心 : 献血への『関心がある』人は安全対策取り組みの評価について、「評価できる」が全体と比べて10ポイント以上高い。
- 献血経験 : 献血経験が『10回以上』ある人は安全対策取り組みの評価について、「評価できる」が全体と比べて10ポイント以上高い。『分からない/覚えていない』人は「評価できない」が全体と比べて10ポイント以上高い。

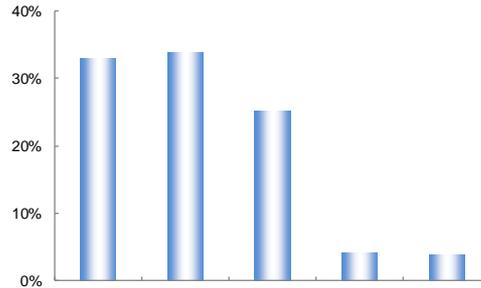


		サンプル数	評価計					評価計
			評価できる	やや評価できる	どちらともいえない	あまり評価できない	評価できない	
	全体	2,000	16.5	35.5	37.7	5.9	4.6	51.9
性別	男性	1,000	16.8	34.0	37.9	5.9	5.4	50.8
	女性	1,000	16.1	36.9	37.4	5.9	3.7	53.0
年代	20代	400	13.8	31.3	39.8	5.5	9.8	45.0
	30代	400	14.5	39.5	32.8	8.0	5.3	54.0
	40代	400	12.8	33.3	43.5	5.5	5.0	46.0
	50代	400	18.5	35.8	39.0	5.3	1.5	54.3
	60代以上	400	22.8	37.5	33.3	5.3	1.3	60.3
	F7.待合室にある冊子閲覧	見る	204	30.4	37.3	24.5	6.4	1.5
	ときどき見る	690	17.1	43.8	33.2	4.6	1.3	60.9
	あまり見ない	538	15.2	33.8	42.0	5.4	3.5	49.1
	見ない	568	11.8	26.2	43.7	7.7	10.6	38.0
Q1. 献血への関心	関心がある	298	33.9	35.9	27.2	2.7	0.3	69.8
	やや関心がある	561	18.0	44.0	33.0	3.0	2.0	62.0
	あまり関心がない	639	12.8	36.8	40.4	7.4	2.7	49.6
	関心がない	502	9.0	23.9	45.6	9.2	12.4	32.9
Q2. 献血経験	10回以上	279	28.0	34.4	31.9	4.3	1.4	62.4
	1~9回	731	18.1	40.9	34.6	4.5	1.9	59.0
	献血した経験はない	902	12.1	33.5	41.9	6.9	5.7	45.6
	分からない/覚えていない	88	11.4	13.6	37.5	12.5	25.0	25.0

全体より10ポイント以上高い
全体より5ポイント以上高い
全体より10ポイント以上低い

Q15. 血漿分画製剤の安定供給の必要性

- 全体 : 血漿分画製剤の安定供給の必要性をたずねたところ、「必要だと思った」+「やや必要だと思った」の“必要計”で見ると、66.8%が必要であると回答。
- 年代別 : 『60代以上』は血漿分画製剤の安定供給の必要性について、「必要だと思った」が全体と比べて10ポイント以上高い。
- 冊子閲覧 : 冊子を『見る』人は血漿分画製剤の安定供給の必要性について、「必要だと思った」が全体と比べて10ポイント以上高い。
- 献血への関心 : 献血への『関心がある』人は血漿分画製剤の安定供給の必要性について、「必要だと思った」が全体と比べて10ポイント以上高い。
- 献血経験 : 献血経験が『10回以上』ある人は血漿分画製剤の安定供給の必要性について、「必要だと思った」が全体と比べて10ポイント以上高い。『分からない/覚えていない』人は「必要だと思わなかった」が全体と比べて10ポイント以上高い。

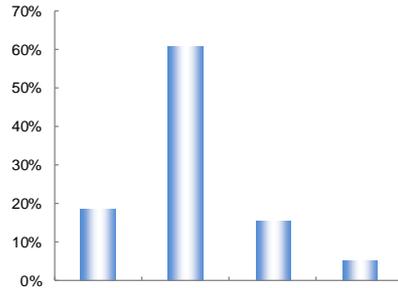


	サンプル数	必要だと思った	やや必要だと思った	どちらともいえない	あまり必要だと思わなかった	必要だと思わなかった	必要計
全体	2,000	32.9	33.9	25.2	4.2	3.9	66.8
性別	男性	31.5	31.7	27.9	4.2	4.7	63.2
	女性	34.3	36.0	22.4	4.2	3.1	70.3
年代	20代	23.0	32.3	31.0	5.8	8.0	55.3
	30代	32.3	29.8	26.5	6.8	4.8	62.0
	40代	28.5	37.3	27.5	2.8	4.0	65.8
	50代	35.5	38.0	22.8	2.3	1.5	73.5
	60代以上	45.3	32.0	18.0	3.5	1.3	77.3
	F7.待合室にある冊子閲覧						
見る	204	46.1	38.2	12.7	2.0	1.0	84.3
ときどき見る	690	37.5	39.6	19.1	2.3	1.4	77.1
あまり見ない	538	30.9	33.5	29.2	4.8	1.7	64.3
見ない	568	24.5	25.7	33.1	6.7	10.0	50.2
Q1. 献血への関心	関心がある	55.4	26.5	16.1	1.0	1.0	81.9
	やや関心がある	36.0	38.7	21.0	2.7	1.6	74.7
	あまり関心がない	29.0	38.8	27.4	3.6	1.3	67.8
	関心がない	21.1	26.5	32.3	8.6	11.6	47.6
Q2. 献血経験	10回以上	48.4	29.7	19.0	1.4	1.4	78.1
	1~9回	36.7	35.7	22.8	3.1	1.6	72.4
	献血した経験はない	26.7	34.7	28.6	5.4	4.5	61.4
	分からない/覚えていない	15.9	22.7	28.4	9.1	23.9	38.6

全体より10ポイント以上高い
全体より5ポイント以上高い
全体より10ポイント以上低い

Q16-1. 資料D理解度_平常時の備え

- 全体 : 資料D(平常時の備え)の理解度をたずねたところ、「理解できた」+「ある程度理解できた」の“理解計”で見ると、79.6%が理解できたと回答。
- 冊子閲覧 : 冊子を『見る』人は資料D(平常時の備え)の理解度について、「理解できた」が全体と比べて10ポイント以上高い。
- 献血への関心 : 献血への『関心がある』人は資料D(平常時の備え)の理解度について、「理解できた」が全体と比べて10ポイント以上高い。
- 献血経験 : 献血経験が『10回以上』ある人は資料D(平常時の備え)の理解度について、「理解できた」が全体と比べて10ポイント以上高い。『分からない/覚えていない』人は「理解できなかった」が全体と比べて10ポイント以上高い。



	サンプル数	理解計				理解計 (%)	
		理解できた	ある程度理解できた	あまり理解できなかった	理解できなかった		
全体	2,000	18.7	60.9	15.3	5.2	79.6	
性別	男性	1,000	20.2	58.5	15.9	5.4	78.7
	女性	1,000	17.2	63.2	14.7	4.9	80.4
年代	20代	400	17.8	54.8	19.8	7.8	72.5
	30代	400	16.8	62.8	12.3	8.3	79.5
	40代	400	17.8	61.0	15.8	5.5	78.8
	50代	400	16.3	67.3	14.3	2.3	83.5
	60代以上	400	25.0	58.5	14.5	2.0	83.5
F7.待合室にある冊子閲覧	見る	204	39.7	55.9	2.9	1.5	95.6
	ときどき見る	690	20.0	68.6	9.9	1.6	88.6
	あまり見ない 見ない	538	14.9	60.6	20.8	3.7	75.5
Q1.献血への関心	関心がある	568	37.6	54.7	6.7	1.0	92.3
	やや関心がある	561	18.2	68.8	10.9	2.1	87.0
	あまり関心がない	639	15.2	64.0	18.2	2.7	79.2
	関心がない	502	12.5	51.6	21.7	14.1	64.1
Q2.献血経験	10回以上	279	33.0	55.2	10.4	1.4	88.2
	1~9回	731	18.2	65.8	13.7	2.3	84.0
	献血した経験はない	902	15.9	60.3	17.4	6.4	76.2
	分からない/覚えていない	88	6.8	43.2	22.7	27.3	50.0

全体より10ポイント以上高い (ピンク) 全体より5ポイント以上高い (オレンジ) 全体より10ポイント以上低い (青)

資料D

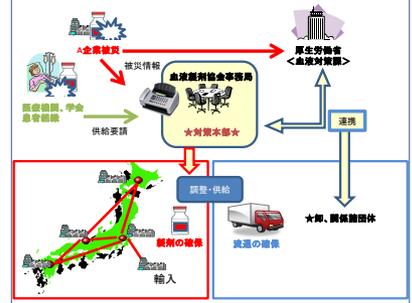
【血しょう分画製剤の安定供給のための取り組み】

血しょう分画製剤の製造販売事業者は血液法に基づき、短期的及び中期的に供給量の計画から実績に関するデータを厚生労働省に報告、データを一元化して貴重な人の血液を原料とする製剤の安定供給を図るとともに、安定的な原料確保や災害・パンデミック等の不測の事態に備えています。
※パンデミック感染症の世界的大流行、新型インフルエンザなど。

【平常時】

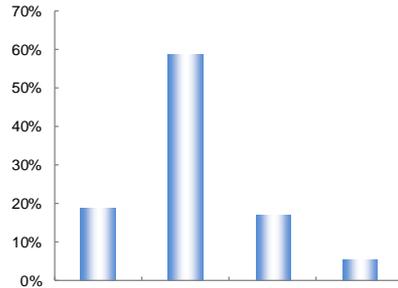
1. 血しょう分画製剤製造販売企業各社は、製剤の種類毎に向こう三年間の供給計画を立案し国に報告している。
2. 年度終了後には結果の報告を行うとともに、翌年度以降の計画を見直すことで、中期的な安定供給を図っている。
3. 更に毎月、供給量と在庫量を国に報告することで、期中の不測の事態に業界として対応する体制をとっている。
4. 以上を通して、市場の状況に基づいて各社が安定供給のための計画を策定する一方で、国はそれに見合った原料血しょうの確保、又は輸入原料・輸入製剤の確保を行う体制が構築されている。
5. なお、一般の医薬品よりも長い製造期間と国家検定（検定期間：50~60日間）に一定期間を要することから、業界各社は特段の在庫管理を行っている。

【緊急時】



Q16-2. 資料D理解度_緊急時の備え

- 全体 : 資料D(緊急時の備え)の理解度をたずねたところ、「理解できた」+「ある程度理解できた」の“理解計”で見ると、77.4%が理解できたと回答。
- 冊子閲覧 : 冊子を『見る』人は資料D(緊急時の備え)の理解度について、「理解できた」が全体と比べて10ポイント以上高い。
- 献血への関心 : 献血への『関心がある』人は資料D(緊急時の備え)の理解度について、「理解できた」が全体と比べて10ポイント以上高い。
- 献血経験 : 献血経験が『10回以上』ある人は資料D(緊急時の備え)の理解度について、「理解できた」が全体と比べて10ポイント以上高い。『分からない/覚えていない』人は「理解できなかった」が全体と比べて10ポイント以上高い。



	サンプル数	理解計				理解計 (%)	
		理解できた	ある程度理解できた	あまり理解できなかった	理解できなかった		
全体	2,000	18.9	58.6	17.1	5.6	77.4	
性別	男性	1,000	20.4	55.3	18.4	5.9	75.7
	女性	1,000	17.3	61.8	15.7	5.2	79.1
年代	20代	400	17.3	52.0	21.5	9.3	69.3
	30代	400	16.8	61.3	13.5	8.5	78.0
	40代	400	18.3	58.3	18.0	5.5	76.5
	50代	400	17.3	64.5	16.0	2.3	81.8
	60代以上	400	24.8	56.8	16.3	2.3	81.5
F7.待合室にある冊子閲覧	見る	204	37.3	54.4	6.4	2.0	91.7
	ときどき見る	690	21.0	65.5	11.7	1.7	86.5
	あまり見ない	538	15.1	58.7	21.9	4.3	73.8
Q1.献血への関心	関心がある	568	13.2	51.4	22.7	12.7	64.6
	やや関心がある	298	36.9	53.4	8.1	1.7	90.3
	あまり関心がない	561	18.5	65.8	13.2	2.5	84.3
Q2.献血経験	10回以上	639	15.8	61.2	20.2	2.8	77.0
	1~9回	502	12.4	50.2	22.7	14.7	62.5
	献血した経験はない	279	30.5	56.6	10.8	2.2	87.1
	分からない/覚えていない	731	19.4	62.9	15.0	2.6	82.4
		902	16.0	57.2	19.8	7.0	73.2
		88	6.8	42.0	25.0	26.1	48.9

全体より10ポイント以上高い (ピンク) 全体より5ポイント以上高い (オレンジ) 全体より10ポイント以上低い (青)

資料D

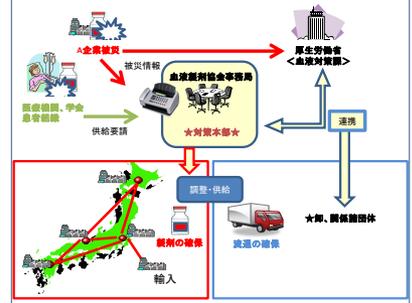
【血しょう分画製剤の安定供給のための取り組み】

血しょう分画製剤の製造販売事業者は血液法に基づき、短期的及び中期的に供給量の計画から実績に関するデータを厚生労働省に報告、データを一元化して貴重な人の血液を原料とする製剤の安定供給を図るとともに、安定的な原料確保や災害・パンデミック等の不測の事態に備えています。
※パンデミック感染症の世界的大流行、新型インフルエンザなど。

【平常時】

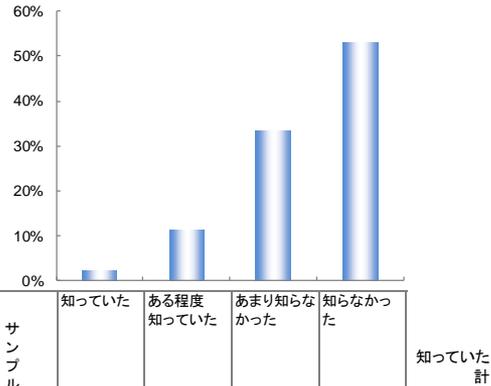
1. 血しょう分画製剤製造販売企業各社は、製剤の種類毎に向こう三年間の供給計画を立案し国に報告している。
2. 年度終了後には結果の報告を行うとともに、翌年度以降の計画を見直すことで、中期的な安定供給を図っている。
3. 更に毎月、供給量と在庫量を国に報告することで、期中の不測の事態に業界として対応する体制をとっている。
4. 以上を通して、市場の状況に基づいて各社が安定供給のための計画を策定する一方で、国はそれに見合った原料血しょうの確保、又は輸入原料・輸入製剤の確保を行う体制が構築されている。
5. なお、一般の医薬品よりも長い製造期間と国家検定（検定期間：50～60日間）に一定期間を要することから、業界各社は特段の在庫管理を行っている。

【緊急時】



Q17. 安定供給のための取り組み認知

- 全体 : 安定供給のための取り組み認知度をたずねたところ、「知っていた」+「ある程度知っていた」の“知っていた計”で見ると、13.4%が知っていたと回答。
- 冊子閲覧 : 冊子を『見る』人は安定供給のための取り組み認知度について、「ある程度知っていた」が全体と比べて10ポイント以上高い。『見ない』人は「知らなかった」が全体と比べて10ポイント以上高い。
- 献血への関心 : 献血への『関心がない』人は安定供給のための取り組み認知度について、「知らなかった」が全体と比べて10ポイント以上高い。
- 献血経験 : 献血経験が『10回以上』ある人は安定供給のための取り組み認知度について、「知らなかった」が全体と比べて10ポイント以上低い。

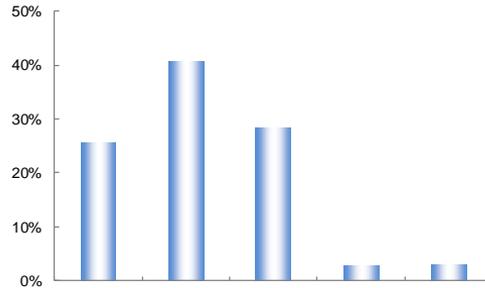


		サンプル数	知っていた				知っていた計
			知っていた	ある程度知っていた	あまり知らなかった	知らなかった	
	全体	2,000	2.3	11.2	33.5	53.1	13.4
性別	男性	1,000	3.3	13.2	36.5	47.0	16.5
	女性	1,000	1.2	9.1	30.5	59.2	10.3
年代	20代	400	4.3	12.0	29.3	54.5	16.3
	30代	400	1.8	14.5	28.0	55.8	16.3
	40代	400	2.5	8.8	36.8	52.0	11.3
	50代	400	1.0	10.0	38.8	50.3	11.0
	60代以上	400	1.8	10.5	34.8	53.0	12.3
	F7. 待合室にある冊子閲覧	見る	204	11.8	24.5	26.5	37.3
	ときどき見る	690	1.2	13.6	36.8	48.4	14.8
	あまり見ない	538	1.1	7.4	37.7	53.7	8.6
	見ない	568	1.2	6.9	28.0	63.9	8.1
Q1. 献血への関心	関心がある	298	7.7	17.1	35.6	39.6	24.8
	やや関心がある	561	1.6	15.9	32.4	50.1	17.5
	あまり関心がない	639	1.4	7.2	39.4	52.0	8.6
	関心がない	502	0.8	7.4	25.9	65.9	8.2
Q2. 献血経験	10回以上	279	6.8	13.6	41.6	38.0	20.4
	1~9回	731	1.9	13.7	32.4	52.0	15.6
	献血した経験はない	902	1.3	9.1	31.6	58.0	10.4
	分からない/覚えていない	88	-	3.4	36.4	60.2	3.4

全体より10ポイント以上高い
全体より5ポイント以上高い
全体より10ポイント以上低い

Q18-1. 取り組み評価_平常時

- 全体 : 平常時の取り組みの評価をたずねたところ、「評価できる」+「やや評価できる」の“評価計”で見ると、66.1%が評価できると回答。
- 年代別 : 『60代以上』は平常時の取り組みの評価について、「評価できる」が全体と比べて10ポイント以上高い。
- 冊子閲覧 : 冊子を『見る』人は平常時の取り組みの評価について、「評価できる」が全体と比べて10ポイント以上高い。『見ない』人は「どちらともいえない」が全体と比べて10ポイント以上高い。
- 献血への関心 : 献血への『関心がある』人は平常時の取り組みの評価について、「評価できる」が全体と比べて10ポイント以上高い。『関心がない』人は「どちらともいえない」が全体と比べて10ポイント以上高い。
- 献血経験 : 献血経験が『10回以上』ある人は平常時の取り組みの評価について、「評価できる」が全体と比べて10ポイント以上高い。『分からない/覚えていない』人は「評価できない」が全体と比べて10ポイント以上高い。



		サンプル数	評価できる	やや評価できる	どちらともいえない	あまり評価できない	評価できない	評価計
全体		2,000	25.5	40.6	28.4	2.7	2.9	66.1
性別	男性	1,000	23.8	39.0	31.2	2.6	3.4	62.8
	女性	1,000	27.1	42.2	25.5	2.8	2.4	69.3
	20代	400	19.8	36.5	33.0	4.5	6.3	56.3
年代	30代	400	24.8	38.3	30.8	2.3	4.0	63.0
	40代	400	20.0	42.8	31.8	3.3	2.3	62.8
	50代	400	26.8	44.8	25.0	2.3	1.3	71.5
	60代以上	400	36.0	40.8	21.3	1.3	0.8	76.8
	F7.待合室にある冊子閲覧	見る	204	41.2	46.6	9.3	1.5	1.5
	ときどき見る	690	30.1	45.5	21.6	1.7	1.0	75.7
	あまり見ない	538	22.1	39.4	33.6	3.2	1.7	61.5
	見ない	568	17.3	33.6	38.4	3.9	6.9	50.9
Q1. 献血への関心	関心がある	298	44.0	40.6	14.1	1.0	0.3	84.6
	やや関心がある	561	26.7	47.1	23.2	1.6	1.4	73.8
	あまり関心がない	639	23.5	43.0	29.7	2.7	1.1	66.5
	関心がない	502	15.5	30.3	40.8	5.0	8.4	45.8
Q2. 献血経験	10回以上	279	35.5	41.9	20.8	1.1	0.7	77.4
	1~9回	731	28.2	45.4	23.8	1.6	1.0	73.6
	献血した経験はない	902	21.4	37.8	33.5	3.5	3.8	59.2
	分からない/覚えていない	88	12.5	25.0	37.5	8.0	17.0	37.5

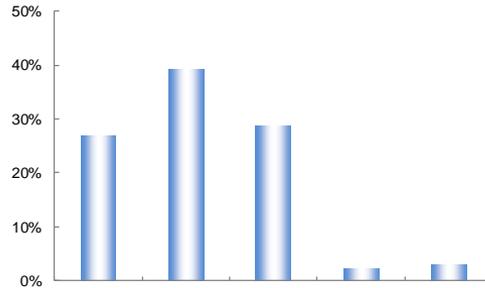
評価計



全体より10ポイント以上高い
全体より5ポイント以上高い
全体より10ポイント以上低い

Q18-2. 取り組み評価_緊急時

- 全体 : 緊急時の取り組みの評価をたずねたところ、「評価できる」+「やや評価できる」の“評価計”で見ると、66.0%が評価できると回答。
- 年代別 : 『60代以上』は緊急時の取り組みの評価について、「評価できる」が全体と比べて10ポイント以上高い。
- 冊子閲覧 : 冊子を『見る』人は緊急時の取り組みの評価について、「評価できる」が全体と比べて10ポイント以上高い。
- 献血への関心 : 献血への『関心がある』人は緊急時の取り組みの評価について、「評価できる」が全体と比べて10ポイント以上高い。『関心がない』人は「どちらともいえない」が全体と比べて10ポイント以上高い。
- 献血経験 : 献血経験が『分からない/覚えていない』人は「評価できない」が全体と比べて10ポイント以上高い。



		サンプル数	評価できる	やや評価できる	どちらともいえない	あまり評価できない	評価できない	評価計
全体		2,000	26.9	39.1	28.7	2.4	3.0	66.0
性別	男性	1,000	25.2	37.2	31.7	2.5	3.4	62.4
	女性	1,000	28.6	40.9	25.7	2.2	2.6	69.5
年代	20代	400	21.3	33.0	35.8	3.8	6.3	54.3
	30代	400	25.5	39.8	27.5	2.8	4.5	65.3
	40代	400	21.5	40.5	32.5	3.3	2.3	62.0
	50代	400	28.8	43.3	26.0	0.8	1.3	72.0
	60代以上	400	37.5	38.8	21.8	1.3	0.8	76.3
	F7.待合室にある冊子閲覧	見る	204	43.6	42.2	11.8	1.0	1.5
	ときどき見る	690	32.3	42.5	22.2	1.7	1.3	74.8
	あまり見ない	538	23.0	39.0	33.8	2.2	1.9	62.1
	見ない	568	18.0	33.8	37.9	3.7	6.7	51.8
Q1. 献血への関心	関心がある	298	46.6	37.6	15.4	0.3	-	84.2
	やや関心がある	561	28.9	45.1	23.4	1.1	1.6	74.0
	あまり関心がない	639	24.1	43.0	29.1	2.5	1.3	67.1
	関心がない	502	16.5	28.1	42.0	4.8	8.6	44.6
Q2. 献血経験	10回以上	279	36.6	42.3	20.4	0.4	0.4	78.9
	1~9回	731	30.5	40.2	26.7	1.4	1.2	70.7
	献血した経験はない	902	22.3	38.2	32.3	3.3	3.9	60.5
	分からない/覚えていない	88	13.6	27.3	35.2	6.8	17.0	40.9

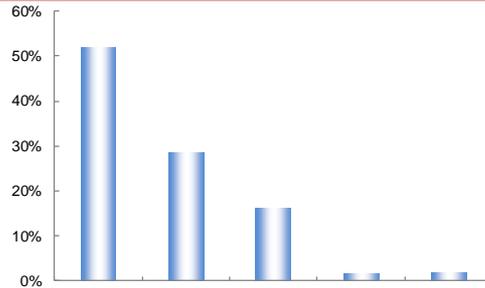
評価計



全体より10ポイント以上高い
全体より5ポイント以上高い
全体より10ポイント以上低い

Q19-1. 望むこと_継続的な安全性に対する取り組み

- 全体 : 血漿分画製剤に望むこと(継続的な安全性に対する取り組み)をたずねたところ、「そう思う」+「ややそう思う」の“そう思う計”で見ると、80.3%がそう思うと回答。
- 年代別 : 『20代』は血漿分画製剤に望むこと(継続的な安全性に対する取り組み)について、「そう思う」が全体と比べて10ポイント以上低い。『60代以上』は「そう思う」が全体と比べて10ポイント以上高い。
- 冊子閲覧 : 冊子を『見る』人は血漿分画製剤に望むこと(継続的な安全性に対する取り組み)について、「そう思う」が全体と比べて10ポイント以上高い。『見ない』人は「どちらともいえない」が全体と比べて10ポイント以上高い。
- 献血への関心 : 献血への『関心がある』人は血漿分画製剤に望むこと(継続的な安全性に対する取り組み)について、「そう思う」が全体と比べて10ポイント以上高い。『関心がない』人は「どちらともいえない」が全体と比べて10ポイント以上高い。
- 献血経験 : 献血経験が『10回以上』ある人は血漿分画製剤に望むこと(継続的な安全性に対する取り組み)について、「そう思う」が全体と比べて10ポイント以上高い。『分からない/覚えていない』人は「どちらともいえない」「そう思わない」が全体と比べてそれぞれ10ポイント以上高い。

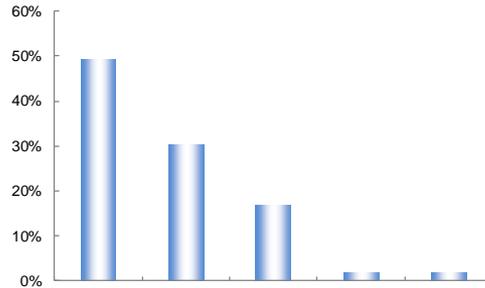


		サンプル数	そう思う計					そう思う計
			そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	
	全体	2,000	51.8	28.5	16.3	1.7	1.8	80.3
性別	男性	1,000	47.5	29.2	19.5	1.8	2.0	76.7
	女性	1,000	56.1	27.7	13.0	1.6	1.6	83.8
	年代	400	40.8	28.5	24.3	2.5	4.0	69.3
年代	20代	400	40.8	28.5	24.3	2.5	4.0	69.3
	30代	400	45.0	30.8	20.0	2.0	2.3	75.8
	40代	400	51.0	27.8	17.0	3.0	1.3	78.8
	50代	400	56.8	31.8	10.5	0.5	0.5	88.5
	60代以上	400	65.5	23.5	9.5	0.5	1.0	89.0
	F7.待合室にある冊子閲覧	見る	204	68.6	24.0	6.4	1.0	-
F7.待合室にある冊子閲覧	ときどき見る	690	58.4	29.6	9.6	1.7	0.7	88.0
	あまり見ない	538	47.8	32.3	17.3	1.9	0.7	80.1
	見ない	568	41.5	25.0	26.9	1.8	4.8	66.5
Q1. 献血への関心	関心がある	298	68.8	22.8	7.7	0.7	-	91.6
	やや関心がある	561	56.5	30.5	11.8	0.5	0.7	87.0
	あまり関心がない	639	49.3	32.4	15.8	2.0	0.5	81.7
	関心がない	502	39.6	24.5	26.9	3.2	5.8	64.1
Q2. 献血経験	10回以上	279	66.7	23.7	8.6	1.1	-	90.3
	1~9回	731	54.6	29.5	14.0	1.1	0.8	84.1
	献血した経験はない	902	47.2	29.6	19.2	2.2	1.8	76.8
	分からない/覚えていない	88	28.4	22.7	29.5	3.4	15.9	51.1

全体より10ポイント以上高い
全体より5ポイント以上高い
全体より10ポイント以上低い

Q19-2. 望むこと_継続的な安定供給

- 全体 : 血漿分画製剤に望むこと(継続的な安定供給に対する取り組み)をたずねたところ、「そう思う」+「ややそう思う」の“そう思う計”で見ると、79.4%がそう思うと回答。
- 年代別 : 『20代』は血漿分画製剤に望むこと(継続的な安定供給に対する取り組み)について、「そう思う」が全体と比べて10ポイント以上低い。『60代以上』は「そう思う」が全体と比べて10ポイント以上高い。
- 冊子閲覧 : 冊子を『見る』人は血漿分画製剤に望むこと(継続的な安定供給に対する取り組み)について、「そう思う」が全体と比べて10ポイント以上高い。『見ない』人は「どちらともいえない」が全体と比べて10ポイント以上高い。
- 献血への関心 : 献血への『関心がある』人は「そう思う」が全体と比べて10ポイント以上高い。『関心がない』人は「どちらともいえない」が全体と比べて10ポイント以上高い。
- 献血経験 : 献血経験が『10回以上』ある人は「そう思う」が全体と比べて10ポイント以上高い。『分からない/覚えていない』人は「どちらともいえない」「そう思わない」がそれぞれ全体と比べて10ポイント以上高い。

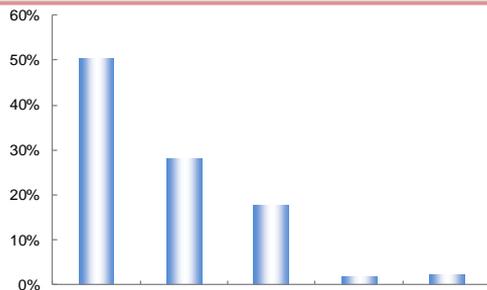


		サンプル数	そう思う計					そう思う計
			そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	
	全体	2,000	49.0	30.4	16.9	2.0	1.8	79.4
性別	男性	1,000	44.9	31.1	19.6	2.4	2.0	76.0
	女性	1,000	53.1	29.7	14.1	1.5	1.6	82.8
年代	20代	400	37.5	31.5	24.3	2.8	4.0	69.0
	30代	400	43.5	29.8	22.5	2.0	2.3	73.3
	40代	400	45.8	32.0	16.8	4.3	1.3	77.8
	50代	400	54.8	33.5	11.0	0.3	0.5	88.3
	60代以上	400	63.5	25.3	9.8	0.5	1.0	88.8
F7. 待合室にある冊子閲覧	見る	204	66.7	25.0	7.4	0.5	0.5	91.7
	ときどき見る	690	54.9	32.3	10.6	1.6	0.6	87.2
	あまり見ない	538	45.4	34.9	16.7	2.2	0.7	80.3
	見ない	568	38.9	25.7	28.0	2.6	4.8	64.6
Q1. 献血への関心	関心がある	298	67.4	22.1	9.1	1.0	0.3	89.6
	やや関心がある	561	54.0	32.3	12.5	0.7	0.5	86.3
	あまり関心がない	639	46.2	35.7	15.6	2.0	0.5	81.8
	関心がない	502	36.1	26.5	27.9	3.8	5.8	62.5
Q2. 献血経験	10回以上	279	63.4	25.4	10.0	0.7	0.4	88.9
	1~9回	731	52.9	30.2	14.2	1.9	0.7	83.2
	献血した経験はない	902	43.8	32.5	19.7	2.2	1.8	76.3
	分からない/覚えていない	88	23.9	26.1	30.7	3.4	15.9	50.0

全体より10ポイント以上高い
全体より5ポイント以上高い
全体より10ポイント以上低い

Q19-3. 望むこと_継続的な難病・希少疾患治療への貢献

- 全体 : 血漿分画製剤に望むこと(継続的な難病・希少疾患治療への貢献)をたずねたところ。「そう思う」+「ややそう思う」の“そう思う計”で見ると、78.6%がそう思うと回答。
- 年代別 : 『20代』は血漿分画製剤に望むこと(継続的な難病・希少疾患治療への貢献)について、「そう思う」が全体と比べて10ポイント以上低い。『60代以上』は「そう思う」が全体と比べて10ポイント以上高い。
- 冊子閲覧 : 冊子を『見る』人は血漿分画製剤に望むこと(継続的な難病・希少疾患治療への貢献)について、「そう思う」が全体と比べて10ポイント以上高い。『見ない』人は「どちらともいえない」が全体と比べて10ポイント以上高い。
- 献血への関心 : 献血への『関心がある』人は血漿分画製剤に望むこと(継続的な難病・希少疾患治療への貢献)について、「そう思う」が全体と比べて10ポイント以上高い。『関心がない』人は「どちらともいえない」が全体と比べて10ポイント以上高い。
- 献血経験 : 献血経験が『10回以上』ある人は血漿分画製剤に望むこと(継続的な難病・希少疾患治療への貢献)について、「そう思う」が全体と比べて10ポイント以上高い。『分からない/覚えていない』人は「どちらともいえない」「そう思わない」が全体と比べてそれぞれ10ポイント以上高い。



		サンプル数	そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	そう思う計
全体		2,000	50.4	28.2	17.6	1.9	2.1	78.6
性別	男性	1,000	45.7	28.1	21.8	2.1	2.3	73.8
	女性	1,000	55.0	28.3	13.3	1.6	1.8	83.3
年代	20代	400	39.3	26.8	26.8	2.8	4.5	66.0
	30代	400	43.8	30.3	21.3	2.3	2.5	74.0
	40代	400	48.3	29.3	17.8	3.3	1.5	77.5
	50代	400	56.0	31.0	11.8	0.5	0.8	87.0
	60代以上	400	64.5	23.8	10.3	0.5	1.0	88.3
F7. 待合室にある冊子閲覧	見る	204	65.7	25.5	6.4	1.0	1.5	91.2
	ときどき見る	690	56.4	30.4	10.4	2.0	0.7	86.8
	あまり見ない	538	48.7	30.5	18.2	1.7	0.9	79.2
Q1. 献血への関心	見ない	568	39.1	24.3	29.6	2.1	4.9	63.4
	関心がある	298	68.1	22.5	8.4	0.7	0.3	90.6
	やや関心がある	561	56.3	29.1	13.4	0.4	0.9	85.4
Q2. 献血経験	あまり関心がない	639	47.1	33.6	16.3	2.3	0.6	80.8
	関心がない	502	37.3	23.7	29.3	3.6	6.2	61.0
	10回以上	279	62.4	26.2	10.0	0.7	0.7	88.5
Q2. 献血経験	1~9回	731	54.6	28.0	15.3	1.2	0.8	82.6
	献血した経験はない	902	45.3	29.6	20.4	2.5	2.1	74.9
	分からない/覚えていない	88	28.4	21.6	30.7	3.4	15.9	50.0

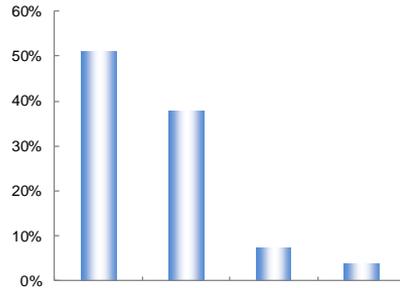
そう思う計



全体より10ポイント以上高い 全体より5ポイント以上高い 全体より10ポイント以上低い

Q20. 安全な血漿分画製剤供給の必要性

- 全体 : 安全な血漿分画製剤供給の必要性をたずねたところ、「必要だと思う」+「やや必要だと思う」の“必要計”で見ると、88.9%が必要だと回答。
- 年代別 : 『20代』は安全な血漿分画製剤供給の必要性について、「必要だと思う」が全体と比べて10ポイント以上低い。『60代以上』は「必要だと思う」が全体と比べて10ポイント以上高い。
- 献血への関心 : 献血への『関心がある』人は安全な血漿分画製剤供給の必要性について、「必要だと思う」が全体と比べて10ポイント以上高い。
- 献血経験 : 献血経験が『10回以上』ある人は安全な血漿分画製剤供給の必要性について、「必要だと思う」が全体と比べて10ポイント以上高い。『分からない/覚えていない』人は「必要だと思わない」が全体と比べて10ポイント以上高い。

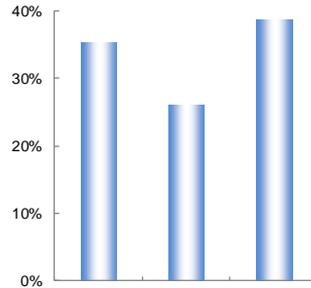


		サンプル数	必要計				必要計
			必要だと思う	やや必要だと思う	あまり必要だと思わない	必要だと思わない	
	全体	2,000	51.1	37.8	7.4	3.8	88.9
性別	男性	1,000	48.1	39.3	8.2	4.4	87.4
	女性	1,000	54.1	36.2	6.6	3.1	90.3
年代	20代	400	40.3	38.0	12.8	9.0	78.3
	30代	400	44.3	43.3	8.3	4.3	87.5
	40代	400	46.5	42.3	7.8	3.5	88.8
	50代	400	58.5	35.3	5.0	1.3	93.8
	60代以上	400	66.0	30.0	3.3	0.8	96.0
	見る	204	60.8	33.3	2.9	2.9	94.1
F7.待合室にある冊子閲覧	ときどき見る	690	58.0	36.1	4.8	1.2	94.1
	あまり見ない	538	48.9	41.4	7.6	2.0	90.3
	見ない	568	41.4	37.9	12.0	8.8	79.2
Q1.献血への関心	関心がある	298	70.8	24.2	3.4	1.7	95.0
	やや関心がある	561	54.5	38.9	5.3	1.2	93.4
	あまり関心がない	639	49.3	42.7	6.9	1.1	92.0
	関心がない	502	37.8	38.2	12.7	11.2	76.1
Q2.献血経験	10回以上	279	66.3	29.7	2.9	1.1	96.1
	1~9回	731	54.3	38.3	5.2	2.2	92.6
	献血した経験はない	902	45.7	40.6	9.6	4.1	86.3
	分からない/覚えていない	88	31.8	29.5	17.0	21.6	61.4

全体より10ポイント以上高い
全体より5ポイント以上高い
全体より10ポイント以上低い

Q21. 血漿分画製剤の情報入手意向

- 全体 : 血漿分画製剤の情報入手意向をたずねたところ、「はい」が35.4%で、情報入手意向のある人は全体の約4割であった。
- 冊子閲覧 : 冊子を『見る』人は血漿分画製剤の情報入手意向について、「はい」が全体と比べて10ポイント以上高い。『見ない』人は「いいえ」が全体と比べて10ポイント以上高い。
- 献血への関心 : 献血への『関心がある』人は血漿分画製剤の情報入手意向について、「はい」が全体と比べて10ポイント以上高い。『関心がない』人は「いいえ」が全体と比べて10ポイント以上高い。
- 献血経験 : 献血経験が『10回以上』ある人は血漿分画製剤の情報入手意向について、「はい」が全体と比べて10ポイント以上高い。『分からない/覚えていない』人は「いいえ」が全体と比べて10ポイント以上高い。



		サンプル数	はい	いいえ	分からない
	全体	2,000	35.4	26.1	38.6
性別	男性	1,000	35.0	29.6	35.4
	女性	1,000	35.8	22.5	41.7
年代	20代	400	32.0	33.8	34.3
	30代	400	38.5	28.3	33.3
	40代	400	30.0	25.3	44.8
	50代	400	35.5	21.3	43.3
	60代以上	400	41.0	21.8	37.3
	F7.待合室にある冊子閲覧	見る	204	66.7	16.7
	ときどき見る	690	44.2	18.7	37.1
	あまり見ない	538	28.3	24.0	47.8
	見ない	568	20.2	40.3	39.4
Q1. 献血への関心	関心がある	298	64.1	15.4	20.5
	やや関心がある	561	45.1	18.0	36.9
	あまり関心がない	639	29.9	23.3	46.8
	関心がない	502	14.5	44.8	40.6
Q2. 献血経験	10回以上	279	49.5	20.1	30.5
	1~9回	731	40.1	22.2	37.8
	献血した経験はない	902	29.2	29.8	41.0
	分からない/覚えていない	88	15.9	38.6	45.5

■ 全体より10ポイント以上高い
 ■ 全体より5ポイント以上高い
 ■ 全体より10ポイント以上低い

5.調査票

調査票 [1/4]

F1. あなたの年齢をお答えください。(あてはまるものを1つ選択)

- 1. 10代以下
- 2. 20代
- 3. 30代
- 4. 40代
- 5. 50代
- 6. 60代以上

F2. あなたの性別をお答えください。(あてはまるものを1つ選択)

- 1. 男性
- 2. 女性

F3. あなたの居住地をお答えください。(あてはまるものを1つ選択)

選択してください ▼

F4. あなたの婚姻状況をお答えください。(あてはまるものを1つ選択)

- 1. 未婚
- 2. 既婚
- 3. 離別・死別

F5. あなたの職業をお答えください。(あてはまるものを1つ選択)

- 1. 学生・予備校生
- 2. 会社員・公務員・団体職員・経営者
- 3. 派遣社員・パート・アルバイト
- 4. 専業主夫・専業主婦
- 5. 無職
- 6. その他

F6. あなたが病院へ行く頻度をお答えください。(あてはまるものを1つ選択)

※上記病院とは、入院施設のある医療機関であり、診療所やクリニックは除きます。
※お見舞い、付添等は除き、ご自身の不調で行く頻度をお答えください。

- 1. 週1回以上
- 2. 1ヶ月に2～3回程度
- 3. 1ヶ月に1回程度
- 4. 2～3ヶ月に1回程度
- 5. 半年に1回程度
- 6. 年に1回程度
- 7. 2～4年に1回程度
- 8. 5年以上行っていない、行ったことがない

F7. あなたは病院やクリニックの待合室に置いてある疾患や治療に関するパンフレットや冊子をご覧になりますか。
(あてはまるものを1つ選択)

- 1. 見る
- 2. ときどき見る
- 3. あまり見ない
- 4. 見ない

【献血についてお伺いします】

Q1. あなたは、献血に関心がありますか。(あてはまるものを1つ選択)

- 1. 関心がある
- 2. やや関心がある
- 3. あまり関心がない
- 4. 関心がない

Q2. あなたは、これまでに献血をした経験がありますか。(あてはまるものを1つ選択)

- 1. 10回以上
- 2. 5～9回
- 3. 4回
- 4. 3回
- 5. 2回
- 6. 1回
- 7. 献血した経験はない
- 8. 分からない/覚えていない

【血液製剤についてお伺いします】

Q3. あなたは、血漿分画製剤(けっしょうぶんかくせいざい)という医薬品について聞いたことがありますか。
(あてはまるものを1つ選択)

- 1. はい
- 2. いいえ

こちらをクリックいただき資料をご覧になった上で、質問にお答えください。



Q4. 資料Aをご覧になって、あなたはそれぞれの程度理解できましたか。(あてはまるものをそれぞれ1つずつ選択)

	理解できた	ある程度理解できた	あまり理解できなかった	理解できなかった
(1) 血液は液体成分である血しょうと、有形成分である赤血球・白血球・血小板などから成り立っていること	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(2) 血液から輸血用血液製剤がつくられること	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(3) 血液から血しょう分画製剤がつくられること	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q5. 資料Aで掲載しているように、(1)「輸血用血液製剤」は血液をそのまま、あるいは赤血球などの成分を分離してつくられること、(2)「血しょう分画製剤」は血液中の血しょうのうち、有用な成分のみを分離・精製してつくられることを、あなたはそれぞれの程度ご存知でしたか。(あてはまるものをそれぞれ1つずつ選択)

	知っている	ある程度知っている	あまり知らない	知らない
(1) 「輸血用血液製剤」はそのまま、あるいは赤血球などの成分を分離してつくられること	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(2) 「血しょう分画製剤」は血液中の血しょうのうち、有用な成分のみを分離・精製してつくられること	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q6. 血液のうち、(1)「輸血用血液製剤」は出血や手術の際に血液の成分を補う目的で使用されること、(2)「血しょう分画製剤」は、様々な病気の治療を目的として使用されることを、あなたはご存知でしたか。(あてはまるものをそれぞれ1つずつ選択)

	知っている	ある程度知っている	あまり知らない	知らない
(1) 輸血用血液製剤は出血や手術の際に血液の成分を補う目的で使用されること	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(2) 血しょう分画製剤は様々な病気の治療を目的として使用されること	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q7. あなたは、多くの難病の患者さんが血しょう分画製剤以外の治療法がなく、かつ生命を維持するためには生涯にわたって血しょう分画製剤を使い続けなければならないことをご存知でしたか。(あてはまるものを1つ選択)

- 1. 知っている
- 2. ある程度知っている
- 3. あまり知らない
- 4. 知らない

Q8. あなたは、輸血用血液製剤や血しょう分画製剤を使った治療を受けた経験がありますか。(あてはまるものをそれぞれ1つずつ選択)

	ある	ない	わからない/覚えていない
(1) 輸血用血液製剤を使った治療の経験	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(2) 血しょう分画製剤を使った治療の経験	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q9. あなたの家族や友人で、輸血用血液製剤や血しょう分画製剤を使った治療を受けた経験のある方はいらっしゃいますか。(あてはまるものをそれぞれ1つずつ選択)

	ある	ない	わからない/覚えていない
(1) 輸血用血液製剤を使った治療の経験	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(2) 血しょう分画製剤を使った治療の経験	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

【血液から作られる血しょう分画製剤の安全性についてお伺いします】

Q10. あなたは現在、血しょう分画製剤の安全性に対してどのようなイメージを持っていますか。(あてはまるものを1つ選択)
※ここでの安全性とは、ウィルス感染症の伝播に対する安全性のことであり、薬の副作用に対する安全性のことでありません。

- 1. 安全そうだと思う
- 2. やや安全そうだと思う
- 3. どちらともいえない
- 4. あまり安全そうだと思わない
- 5. 安全そうだと思わない

血しょう分画製剤は人の血液を原料としているため、その血液に由来するようなウイルス感染症の伝播防止対策が重要です。血しょう分画製剤の製造企業では、患者さんに安心してお使いいただけるよう様々な安全対策に取り組んでいます。

こちらをクリックいただき資料をご覧になった上で、質問にお答えください。



Q11. 資料Bをご覧になって、あなたは安全対策の取り組みそれぞれについて、どの程度理解できましたか。(あてはまるものをそれぞれ1つずつ選択)

	理解できた	ある程度理解できた	あまり理解できなかった	理解できなかった
(1)血しょう分画製剤が製品として出荷されるまでに、大きく分けて5つの厳しい安全性を確保するための対策が設けられていること	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(2)血しょう分画製剤が製品として出荷されるまでに、輸血用血液製剤と共通の対策に加え、血しょう分画製剤特有の対策も設けていること	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q12. あなたは、資料Bでご覧いただいた安全対策の取り組みをどの程度ご存知でしたか。(あてはまるものを1つ選択)

- 1. 知っていた
- 2. ある程度知っていた
- 3. あまり知らなかった
- 4. 知らなかった

Q13. あなたは、資料Bでご覧いただいた安全対策の取り組みをどの程度評価されますか。(あてはまるものを1つ選択)

- 1. 評価できる
- 2. やや評価できる
- 3. どちらともいえない
- 4. あまり評価できない
- 5. 評価できない

【血液から作られる血しょう分画製剤の安定供給についてお問い合わせ】

こちらをクリックいただき資料をご覧になった上で、質問にお答えください。



Q14. 資料Cをご覧になって、あなたは血しょう分画製剤が、さまざまな難病・希少疾患の患者さんの治療に用いられていることをどの程度認識できましたか。(あてはまるものを1つ選択)

- 1. すでに認識していた
- 2. 認識できた
- 3. ある程度認識できた
- 4. あまり認識できなかった
- 5. 認識できなかった

Q15. あなたは、資料Cをご覧になって、血しょう分画製剤の安定した供給が必要だと思いましたか。(あてはまるものを1つ選択)

- 1. 必要だと思った
- 2. やや必要だと思った
- 3. どちらともいえない
- 4. あまり必要だと思わなかった
- 5. 必要だと思わなかった

【血液から作られる血しょう分画製剤を安定して供給するための取り組みについて伺います。】

こちらをクリックいただき資料をご覧になった上で、質問にお答えください。



Q16. 資料Dをご覧になって、あなたは平常時および緊急時における血しょう分画製剤の安定供給の備えについて、どの程度理解できましたか。(あてはまるものを1つ選択)

	理解できた	ある程度理解できた	あまり理解できなかった	理解できなかった
(1)平常時においては、3年間の供給計画を国に報告し、毎月、供給量と在庫量を国に報告することで、安定供給を図っていること	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(2)緊急時においては、仮にある地域が災害やパンデミック等で製造工場が稼働しないような場合でも、国や関係企業が協力して安定供給を図る体制であること	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q17. あなたは、資料Dでご覧いただいた血しょう分画製剤の安定供給のための取り組みをどの程度ご存知でしたか。
(あてはまるものを1つ選択)

- 1. 知っていた
- 2. ある程度知っていた
- 3. あまり知らなかった
- 4. 知らなかった

Q18. あなたは、資料Dでご覧いただいた血しょう分画製剤の安定供給のための取り組みをどの程度評価されますか。
(あてはまるものを1つ選択)

	評価できる	やや評価できる	どちらともいえない	あまり評価できない	評価できない
(1) 平常時においては、3年間の供給計画を国に報告し、毎月、供給量と在庫量を国に報告することで、安定供給を図っていること	<input type="radio"/>				
(2) 緊急時においては、仮にある地域が災害やパンデミック等で製造工場が稼働しないような場合でも、国や関係企業が協力して安定供給を図る体制であること	<input type="radio"/>				

Q19. あなたが今後の血しょう分画製剤について望むこととして、お考えに最も近いものをお選びください。
(それぞれあてはまるものを1つずつ選択)

	そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない
(1) 安全性に対する取り組みを継続して行ってほしい	<input type="radio"/>				
(2) 安定供給に対する取り組みを継続して行ってほしい	<input type="radio"/>				
(3) 難病・希少疾病を含む治療に継続して貢献してほしい	<input type="radio"/>				

Q20. あなたは安全な血しょう分画製剤が不足することなく、必要とする人々に適切に提供されることは、必要なことだと思いますか。(あてはまるものを1つ選択)

- 1. 必要だと思う
- 2. やや必要だと思う
- 3. あまり必要だと思わない
- 4. 必要だと思わない

Q21. あなたは血しょう分画製剤について、もっと情報を知りたいとお考えですか。(あてはまるものを1つ選択)

- 1. はい
- 2. いいえ
- 3. 分からない

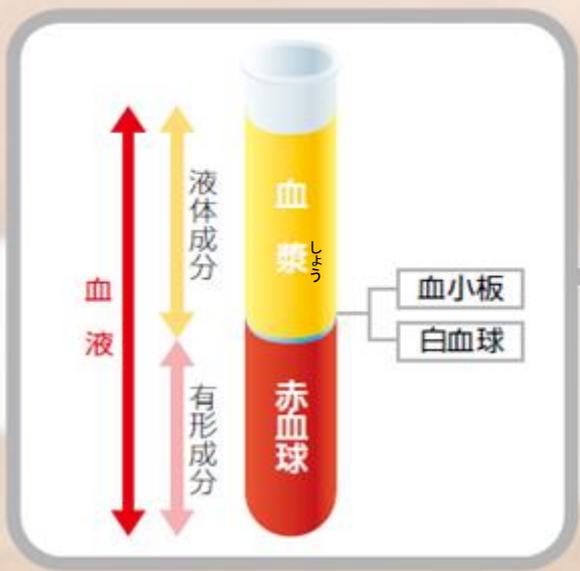
以上でアンケートは終了です。下記の送信ボタンを押して送信してください。

送信する

血液の有効利用

血液製剤は、患者さんの輸血に用いられる製剤と、血漿成分を精製して得られる血漿分画製剤に大別されます。

血液製剤の種類と主な使用目的



血漿分画製剤

輸血用血液製剤

血漿分画製剤の種類

人血清アルブミン
乾燥人フィブリノゲン
血液凝固第Ⅶ因子
乾燥濃縮人血液凝固第Ⅸ因子
インヒビター製剤
乾燥血液凝固第ⅩⅢ因子
トロンピン
人免疫グロブリン
抗 HBs 人免疫グロブリン
抗 D(Rho) 人免疫グロブリン
抗破傷風人免疫グロブリン
乾燥濃縮人アンチトロンピンⅢ
乾燥濃縮人活性化プロテイン C
人ハプトグロブリン
乾燥濃縮人 C1-インアクチベーター
生理的組織接着製剤 (フィブリン糊)

成分製剤

全血製剤

【血しょう分画製剤のウイルスに対する安全性確保対策】

血しょう分画製剤が医療の現場に届くまでには、原料となる血しょうを得る段階から製品として出荷されるまで、大きく分けて5つの厳しい「安全性を確保するためのステップ」が設けられています。

採血時の問診・診察

原料となる血しょうを採取する段階で、供血者の健康状態等についての問診・診察が行われます。そして、問題ないと判断された方の血しょうのみが、血しょう分画製剤の製造に使用される原料の候補となり、次の段階に進みます。

原料^{しょう}血漿の感染症に関する検査

感染症に関する検査が行われます。まず、エイズ原因ウイルス(HIV)、B型肝炎ウイルス(HBV)、C型肝炎ウイルス(HCV)について、抗原または抗体の検査(血清学的検査)および核酸増幅検査が実施されます。これらのウイルスに感染している供血者の血しょうはほとんど、これらの検査で排除することができます。

原料^{しょう}血漿の貯留保管

先の2つのステップをクリア(合格)した血しょうは、一定期間倉庫に貯留保管されます。この間に供血者にウイルス感染等の疑いが出た場合、その人から採取された血しょうは他の血しょうから隔離されます。

製造工程でのウイルス不活化・除去

万が一ウイルス等が混入した場合でも、そのウイルス等を不活化又は除去できるような工程[エタノール処理、加熱処理、SD(有機溶剤/界面活性剤)処理、ウイルス除去膜処理など]が2つ以上組み込まれています。



最終製品の検査

できあがった製品に対し、出荷前の最終段階で実施される各種検査(無菌試験、発熱試験、異常毒性否定試験等)です。この検査をクリア(合格)した製品だけが出荷され、医療機関で患者さんに使用されます。

↑
ここでは、
輸血用血液製剤と共通のステップ

↑
上記にプラスで、
血しょう分画製剤特有のステップ

【血しょう分画製剤を必要とする難病・希少疾患とその患者数】

血しょう分画製剤は、免疫グロブリン製剤のように抗生物質などが効きにくい重症感染症の患者さんやアルブミン製剤のように熱傷や肝臓病、腎臓病などの患者さんに幅広く使用される一方、以下のような多くの難病・希少疾患の患者さんに使用されています。

多くの血しょう分画製剤は他の医薬品では代替ができませんし、難病の患者さんの中には、生涯にわたって継続的に血しょう分画製剤を用いた治療が必要な患者さんもいます。

	適応症名	対象患者数	該当製剤数	承認年	経過年数 (2013年現在)
凝固線溶 その他	血液凝固第Ⅷ因子欠乏症(血友病A)	3,868人	5	1979	34
	血液凝固第Ⅸ因子欠乏症(血友病B)	827人	4	1977	36
	フォン・ヴィレブランド病	737人	2	1979	34
	先天性アンチトロンピン Ⅲ欠乏に基づく血栓形成傾向	190人	3	1987	26
	先天性及び後天性 血液凝固第ⅩⅢ因子欠乏に伴う出血傾向	90人	1	1994	19
	先天性プロテインC欠乏症に起因する次の疾患 (1)深部静脈血栓症、急性肺血栓塞栓症 (2)電撃性紫斑病	(1) 8,000~12,000人 (2) 1人/1~2年	1	2000	13
	先天性低フィブリノゲン血症	52人	1	1964	49
	遺伝性血管 性浮腫の急性発作	100人	1	1990	23
免疫 グロブリン (静注)	低ならびに無ガンマグロブリン血症(原発性免疫不全症候群を含む)	3,500人	6	1975	38
	川崎病の急性期	11,000人	4	1990	23
	特発性血小板減少性紫斑病	20,000人	5	1985	28
	慢性炎症性脱髄性多発根神経炎 (CIDP)	2,000人前後	2	1999	14
	ギランバレー症候群(急性増悪期で歩行困難な重症例)	10万人あたり1~2人/年	1	2000	13
	チャーグ・ストラウス症候群又は アレルギー性肉芽腫性血管炎における神経障害の改善	450人/年	1	2010	3
	天疱瘡	3,500~4,000人	1	2008	5
	多発性筋炎・皮膚筋炎	17,000人	1	2010	3
重症筋無力症	15,100人	1	2011	2	
特殊免疫 グロブリン	HBs抗原陽性血液の汚染事故後のB型肝炎発症予防	—	4	1980	33
	新生児のB型肝炎予防(原則として、沈降B型肝炎ワクチンとの併用)	—	5	1980	33
	(1) HBs抗原陽性レシピエントの肝移植後の再発抑制 (2) HBs抗体陽性ドナーからの肝移植後のレシピエントにおける発症抑制	(1) 58人 (2) 50人未満	1	2008	5
	破傷風発症予防ならびに発症後の症状軽減	~約120人	5	1967	46
	D陰性でD因子で感作を受けていない女性の妊娠中又は 分娩後などの感作の抑制 (※妊娠27週投与を含む)	5,500人	2	1972	41

* 対象患者数は血液製剤機構だより「132号」、難病情報センターHPから一部抜粋

2012年7月 血液製剤協会会員会社調査による

【血しょう分画製剤の**安定供給**のための取り組み】

血しょう分画製剤の製造販売事業者は血液法に基づき、短期的及び中期的に供給量の計画から実績に関するデータを厚生労働省に報告、データを一元化して貴重な人の血液を原料とする製剤の安定供給を図るとともに、安定的な原料確保や災害・パンデミック等の不測の事態に備えています。

※パンデミック→感染症の世界的大流行。新型インフルエンザなど。

【平常時】

1. 血しょう分画製剤製造販売企業各社は、製剤の種類毎に向こう**三年間の供給計画を立案し国に報告**している。
2. 年度終了後には結果の報告を行うとともに、翌年度以降の計画を見直すことで、中期的な安定供給を図っている。
3. 更に**毎月、供給量と在庫量を国に報告**することで、期中の不測の事態に業界として対応する体制をとっている。
4. 以上を通して、市場の状況に基づいて**各社が安定供給のための計画を策定**する一方で、国はそれに見合った原料血しょうの確保、又は輸入原料・輸入製剤の確保を行う**体制が構築**されている。
5. なお、一般の医薬品よりも長い製造期間と国家検定（検定期間：50～60日間）に一定期間を要することから、業界各社は**特段の在庫管理**を行っている。

【緊急時】

